

CentreCOM **FS732TX V1**

ユーザーマニュアル

安全のために



必ずお守りください

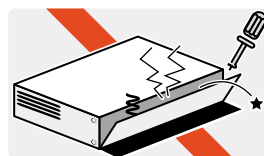


警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

分解や改造をしない

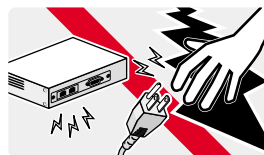
本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。



分解禁止

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。



雷のときはさわらない

異物はいれない 水は禁物

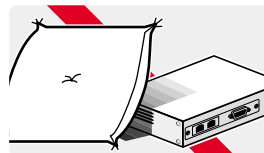
火災や感電の恐れがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。(当社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。)



異物厳禁

通風口はふさがない

内部に熱がこもり、火災の原因となります。



ふさがない

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

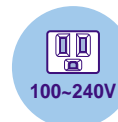
内部回路のショートの原因になり、火災や感電の恐れがあります。



設置場所注意

表示以外の電圧では使用しない

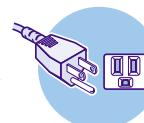
火災や感電の原因となります。
本製品は AC100 - 240V で動作します。
なお、本製品に付属の電源ケーブルは 100V 用ですのでご注意ください。



電圧注意

正しい電源ケーブル・コンセントを使用する

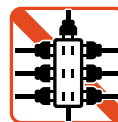
不適切な電源ケーブル・コンセントは火災や感電の原因となります。
接地端子付きの3ピン電源ケーブルを使用し、接地端子付きの3ピン電源コンセントに接続してください。



3ピン
コンセント

コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない

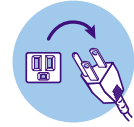
たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。



たこ足禁止

設置・移動のときは電源プラグを抜く

感電の原因となります。



プラグを
抜く

電源ケーブルを傷つけない

火災や感電の原因となります。

電源ケーブルやプラグの取扱上の注意：

- ・加工しない、傷つけない。
- ・重いものを載せない。
- ・熱器具に近づけない、加熱しない。
- ・電源ケーブルをコンセントから抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



傷つけない

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください。

- ・直射日光の当たる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（湿度80%以下の環境でご使用ください）
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、ジュタンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
- ・腐食性ガスの発生する場所



静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクタの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。



取り扱いはていねいに

落としたり、ぶついたり、強いショックを与えないでください。



お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。



機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、強く絞ったものでふき、乾いた柔らかい布で仕上げてください。



ぬらすな



中性洗剤
使用



強く絞る
使用

お手入れには次のものは使わないでください

・石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん
（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。）



シンナー
類不可

ご注意

本書の中に含まれる情報は、当社(アライドテレシス株式会社)の所有するものであり、当社の同意なしに、全体または一部をコピーまたは転載しないでください。当社は、予告無く本書の全体または一部を修正・改訂することがあります。また、改良のため製品の仕様を予告無く変更することがあります。

Copyright © 2001, 2002 アライドテレシス株式会社

商標について

CentreCOM は、アライドテレシス株式会社の登録商標です。
MS-DOS、Windows、Windows NTは、米国Microsoftの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
本マニュアルの中に掲載されているソフトウェアまたは周辺機器の名称は、各メーカーの商標または登録商標です。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

このマニュアルについて

このたびは、CentreCOM FS732TX V1(以下、FS732TX V1)をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

FS732TX V1は10BASE-T/100BASE-TXポートを32ポート装備したファーストイーサネット・スイッチです。

内蔵されたソフトウェアによって、ターミナルポートから簡単な設定が可能です。

本書では、ご使用いただくうえでの注意事項や設置の方法、ソフトウェアの設定方法、付録で障害が発生したときの対処方法や製品仕様について説明しています。

本書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。また、お読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

マニュアルバージョン






2001年 5月	Rev.A	初版
2002年 1月	Rev.B	誤記訂正

このマニュアルについて

表記規則

本書の表記規則を以下に示します。

アイコン

アイコン		意味
	ヒント	重要な情報や指示を示します。
	注意	人体やシステムに危害や損害がおよぶ恐れがあることを示します。
	警告	人体に重大な危害がおよぶ恐れがあることを示します。
	手順	操作手順を示します。
	参照	参照ページ・参照項目を示します。

マニュアルの構成

本書の構成は、以下のとおりです。

1 はじめに

本製品の梱包内容、特長、各部の名称と働き、設置方法と機器の接続について説明しています。

2 ソフトウェアの設定

本製品に対する設定を行うためのターミナルソフトウェアの設定方法、メニューの操作、各機能と設定内容について説明しています。

3 付録

トラブルシューティング、製品仕様について説明しています。

4 保証とユーザーサポート

本製品の保証と、障害の際のユーザーサポート、調査依頼書の記入方法について説明しています。

目次

安全のために	ii
ご注意	iv
商標について	iv
電波障害自主規制について	iv
このマニュアルについて	v
表記規則	vi
マニュアルの構成	vii
1 はじめに	1-1
1 梱包内容	1-2
2 特長	1-3
3 各部の名称と働き	1-4
前面	1-4
背面	1-6
側面	1-6
4 LED 表示	1-7
10BASE-T/100BASE-TX ポート LED	1-7
ステータス LED	1-7
5 設 置	1-8
設置するときの注意	1-8
設置方法	1-8
6 接 続	1-10
ネットワーク機器を接続する	1-10
コンソールを接続する	1-11
電源ケーブルを接続する	1-13
2 ソフトウェアの設定	2-1
1 ターミナルソフトの設定	2-2
VTTERM の設定手順	2-2
Windows 3.1 の「ターミナル」の設定手順	2-3
Windows 95/98/2000、Windows NT の「ハイパーターミナル」の設定手順	2-5
2 メニューの設定	2-8
メインメニュー	2-8
サブメニューのコマンド共通操作	2-10
ポート設定サブメニュー - Port Configuration Menu	2-10
Set Mode - 通信モードと速度設定	2-11

Set Status - ポートの通信有効・無効設定	2-12
Set Flow Control - フローコントロールの有効・無効設定	2-14
バーチャル LAN 設定サブメニュー - VLAN Management Menu	2-16
Add VLAN Member - バーチャル LAN(VLAN)ポート設定	2-17
Delete VLAN Member - バーチャル LAN(VLAN)ポート削除設定	2-18
Port Based List Menu - ポート番号別割当て VLAN グループ確認	2-19
ポートプライオリティ設定サブメニュー - Port Priority Setting Menu ...	2-20
Select Traffic Class - プライオリティキュー設定	2-21
Weight Setting Menu - プライオリティウェイト設定	2-22
ポートランキング設定サブメニュー - Trunk Configuration Menu	2-24
Add Trunk Member - トランクグループポート設定	2-25
Remove Trunk Member - トランクグループポート削除設定	2-27
Set Trunk status - トランキング機能有効・無効設定	2-28
ポートミラーリング設定サブメニュー - Traffic/Port Mirroring Menu	2-29
Set Destination Port - ミラーポート設定	2-29
Set Source Port - ソースポート設定	2-30
Enable/Disable Port Monitoring - ポートミラーリング機能有効・無効設定	2-31
初期値リセット - Reset To Defaults	2-32

3 付 録 3-1

1 トラブルシューティング	3-2
トラブルと思ったら	3-2
2 仕 様	3-4
コネクタ / ケーブル仕様	3-4
本製品の仕様	3-5

4 保証とユーザーサポート 4-1

1 保証とユーザーサポート	4-2
保証	4-2
ユーザーサポート	4-2
2 調査依頼書のご記入にあたって	4-3
使用しているハードウェアについて	4-3
お問い合わせ内容について	4-3
ネットワーク構成について	4-3
調査依頼書 (CentreCOM FS732TX V1)	4-5

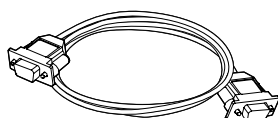
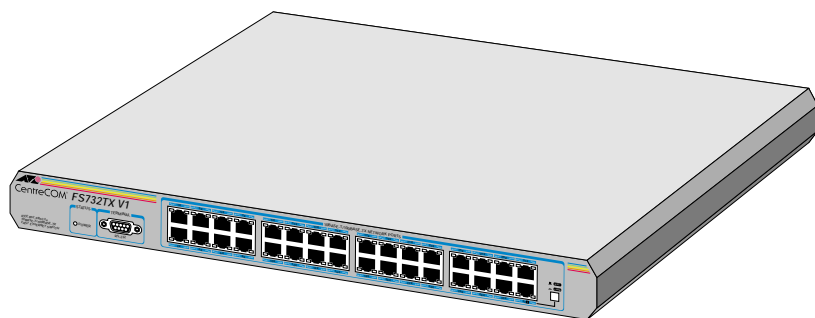
1

はじめに

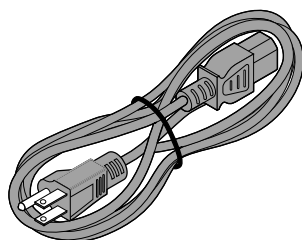
この章では、本製品の梱包内容、特長、各部の名称と働き、設置方法と機器の接続について説明しています。

1 梱包内容

CentreCOM FS732TX V1本体 1台



RS-232クロスケーブル
(2m) 1本

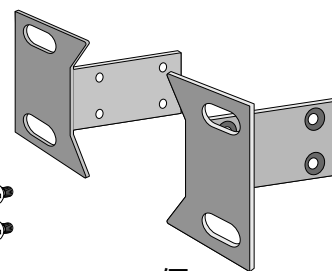


電源ケーブル 1本



ブラケット
ブラケット用ネジ

2個
8個

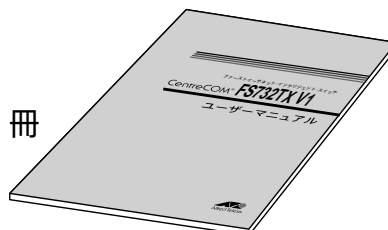


19インチラック
マウント用鍋ネジ 4個

ラックによっては、適合しない場合
があります。
その場合は、ご使用のラックに付属
のネジをお使いください。



ユーザーマニュアル(本書) 1冊



製品保証書 1枚

お客様インフォメーション登録カード 1枚

シリアル番号シール 3枚

最初に梱包箱の中身を確認してください。

本製品を移送する場合は、工場出荷時と同じ梱包箱で再梱包されることが望まれます。再梱包のために、本製品が納められていた梱包箱、緩衝材などは捨てずに保管してください。

2 特長

32 ポートの 10BASE-T/100BASE-TX ポートを装備

ポートごとにオートネゴシエーション、Full duplex / Half duplex の通信モード、10Mbps / 100Mbps の通信速度が設定可能

フローコントロール(Half duplex 時 = バックプレッシャー、Full duplex 時 = IEEE 802.3x PAUSE)をサポート

最大 16,000 個の MAC アドレスを登録可能

QoS 機能をサポート

ポートミラーリング機能をサポート

ポートランキング機能をサポート

ポートベース VLAN を最大 32 グループまで設定可能

ポートごとの通信状況が一目でわかる LED を装備

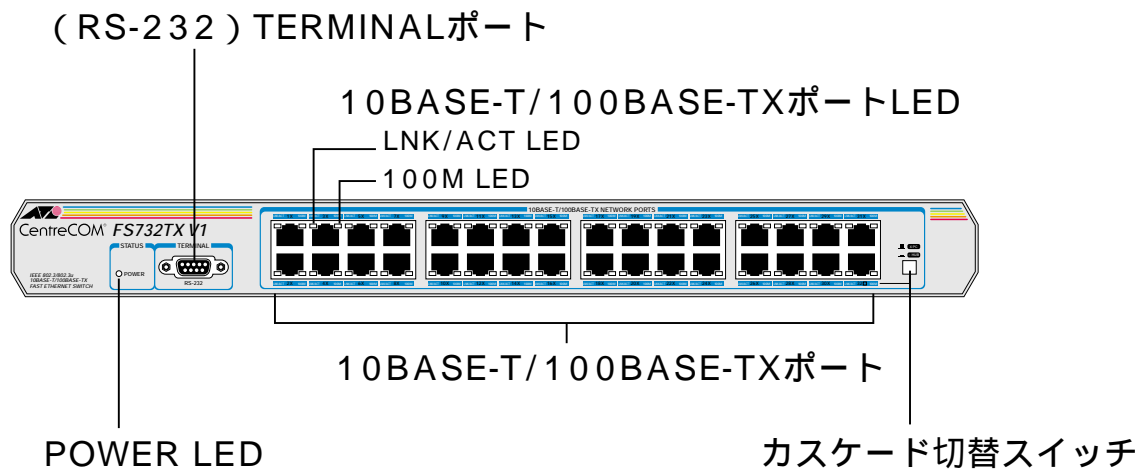
19 インチラックへの取り付け可能

AC 電源を内蔵

RS-232 コネクターで接続しているコンソールから内蔵ソフトウェアへのアクセスが可能

3 各部の名称と働き

前面



POWER LED

電源の供給状態を表示するためのLEDランプです。

(RS-232)TERMINAL ポート

本体とコンソールとを接続してソフトウェアを使用するためのコネクタです。コネクタは9ピンオスタイプです。ケーブルは同梱のRS-232クロスケーブルを使用します。

カスケード切替スイッチ

ポート 32 をカスケード接続用ポートとして使用するか、通常の10BASE-T/100BASE-TXポートとして使用するかを設定するためのスイッチです。出荷時設定は「X PC」です。

= HUB

カスケード接続するときのカスケード接続用ポート(MDI)として使用します。

X PC

通常の10BASE-T/100BASE-TXポート(MDI-X)として使用します。

10BASE-T/100BASE-TX ポート

10BASE-T、または100BASE-TXのUTPケーブルを接続するためのコネクタです。このポートは、接続先の機器に応じて通信モードと通信速度(Full/Half duplex・10/100Mbps)を自動検出して、最適な状態で接続する AUTO(オートネゴシエーション)がデフォルトで設定されています。

ケーブルは10BASE-Tの場合はカテゴリ3以上、100BASE-TXの場合はカテゴリ5のUTPケーブルを使用します。

10BASE-T/100BASE-TX ポート LED

10BASE-T/100BASE-TXポートと接続先の機器の通信状況を表示するためのLEDランプです。

LNK/ACT

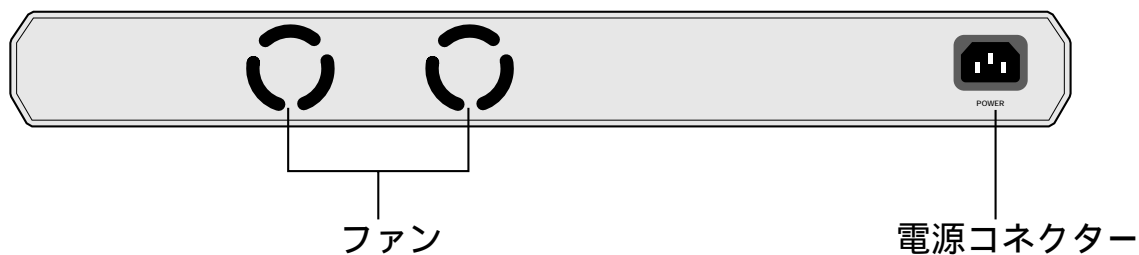
本製品のポートと接続機器とのリンクが確立し、相互に通信が可能な状態にあるときに点灯します。またパケットの送受信が正常に行われているときに点滅します。

100M

ポートが100F(100M Full)/100H(100M Half)に設定されているか、AUTO設定時に100Mbpsで動作しているときに点灯します。消灯している場合は、10Mbpsで動作していることを示します。

3 各部の名称と働き

背面



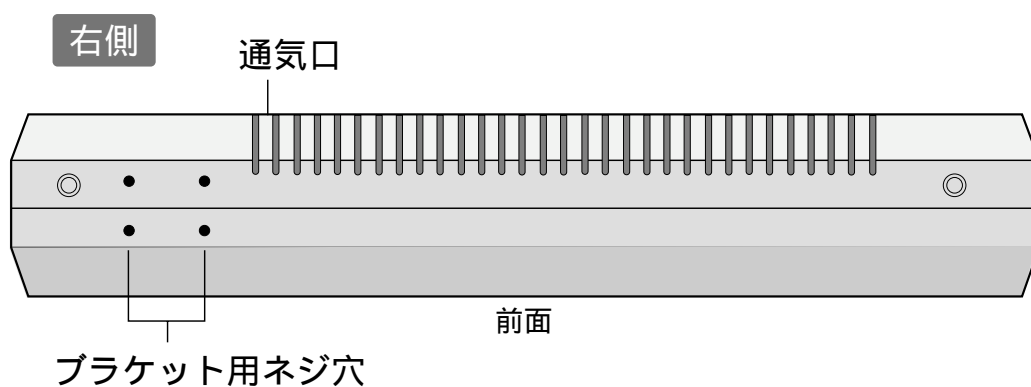
ファン

熱を逃がして空気の循環をよくするためのファンです。

電源コネクター

電源ケーブルを接続するためのコネクターです。

側面





通気口

熱を逃がして空気の循環をよくするための通気口です。

ブラケット用ネジ穴

同梱の 19 インチラック用ブラケットを取り付けるためのネジ穴です。

 1-9 ページ「19 インチラックへの取り付け」

 通気口やファンをふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

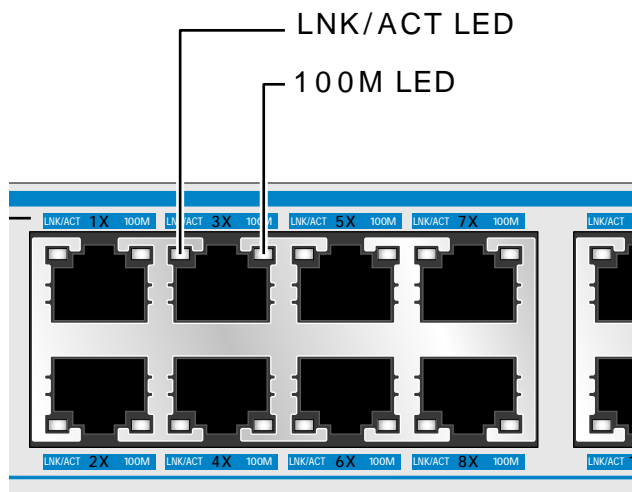
1

はじめに

4 LED 表示

10BASE-T/100BASE-TX ポート LED

本体前面のポートの両脇にそれぞれのポートの状態を示すLEDランプがついています。



LED	色	状態	表示内容
LNK/ACT	緑	点灯	リンクが確立しています。
		点滅	パケットを送受信しています。
		消灯	リンクが確立していません。
100M	緑	点灯	100F (100M Full) / 100H (100M Half) に固定設定されているか、もしくはAUTO設定時に100Mbpsで動作しています。
		消灯	10Mbpsで動作しています。またはリンクが確立していません。

ステータス LED

電源の供給状態を示します。

LED	色	状態	表示内容
POWER	緑	点灯	本体に電源が供給されています。
		消灯	電源ケーブルが正しく接続されていないか、指定した電源電圧が使用されていません。

5 設 置

設置するときの注意

本製品の設置や保守を始める前に、必ずiiページの「安全のために」をよくお読みください。

設置場所については、次の点にご注意ください。

電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような配置はさけてください。

テレビ、ラジオ、無線機などのそばに設置しないでください。

傾いた場所や、不安定な場所に設置しないでください。

本体の上に物を置かないでください。

直射日光のあたる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所に設置しないでください。

設置方法

設置方法には、水平な場所に設置する方法と、EIA規格の標準ラックに取り付ける方法があります。

▶ デスクの上など水平な場所への設置

- 1 電源ケーブルや各メディアのケーブルをはずします。
- 2 ファンと通気口をふさぐものがなく、水平で安定した場所に設置します。

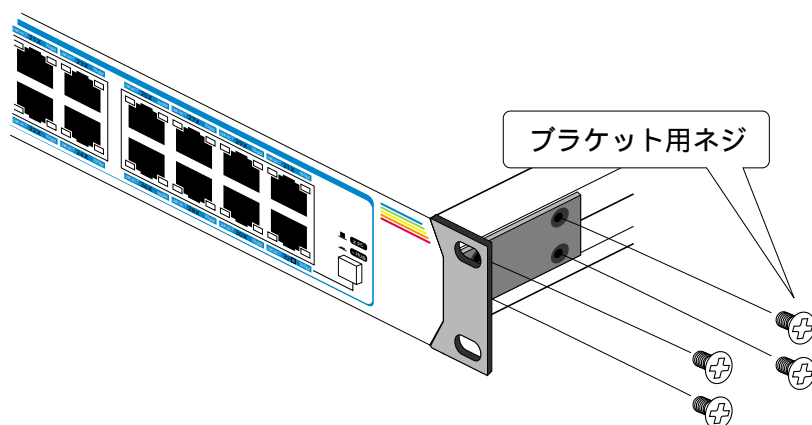
本製品にはあらかじめ、底面の四隅にゴム足が取り付けられています。ゴム足は本体を固定し、衝撃を吸収するクッションの役割をします。本製品をデスクの上などに設置するときは、必ずゴム足を使用します。

▶ 本製品を19インチラックに取り付けるときは、ゴム足を外してください。

▶ 19 インチラックへの取り付け

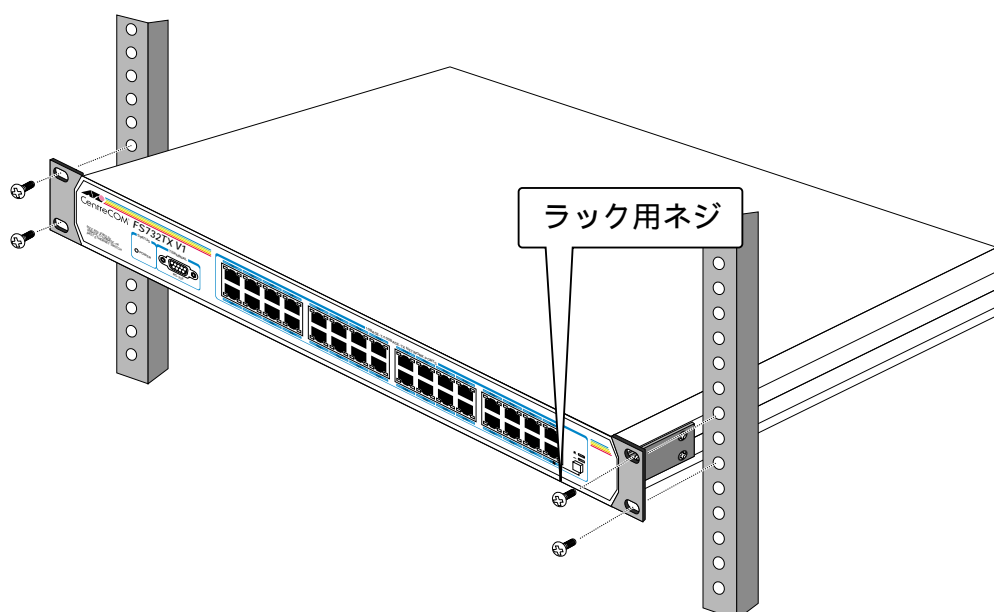
同梱のラック用ブラケットを使用して、EIA規格の19インチラックに取り付けることができます。

- 1 電源ケーブルや各メディアのケーブルをはずします。
- 2 本体側面にブラケットを合わせ、ブラケット用ネジでしっかりと固定します。



- 3 19インチラックの希望する位置に本体を合わせて、ラックに付属しているネジでしっかりと固定します。

▶ **!** ブラケットおよびブラケット用ネジは必ず同梱のものを使用し、本製品に同梱のラック用ネジまたはラックに付属しているネジで確実に固定してください。固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生する恐れがあります。



6 接 続

ネットワーク機器を接続する

ケーブル

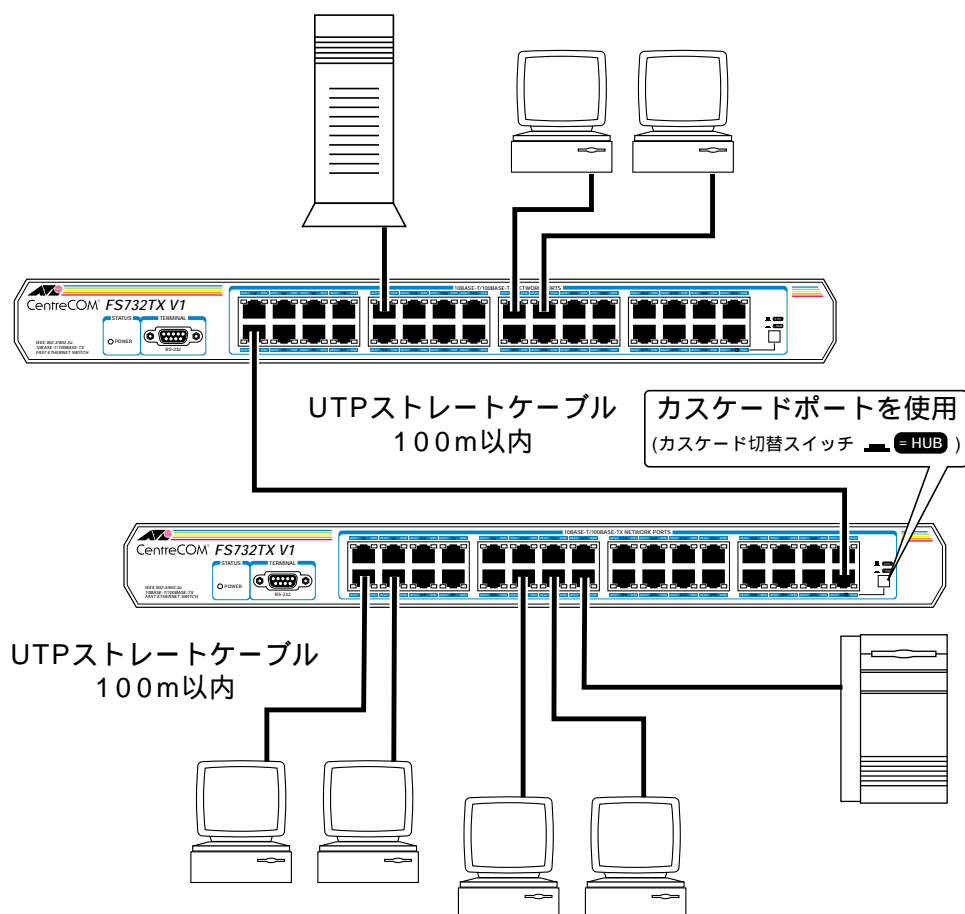
ケーブルは100BASE-TXの場合、カテゴリ-5のUTPケーブル、10BASE-Tの場合は、カテゴリ-3以上のUTPケーブルを使用します。

i 100BASE-TXにアップグレードするときに、余分な経費やトラブルが発生するのを避けるため、最初から、カテゴリ-5ケーブルをご使用になることをお勧めします。

なお、本製品は弊社販売品のシールド付カテゴリ-5(ストレート)ケーブルにも対応しています。

本製品とリピーターやスイッチ(MDI-Xポート)を接続する場合は、カスケードポート(ポート32)にUTPケーブル(ストレートタイプ)を接続し、カスケード切替スイッチを=HUBにしてください。

本製品と端末を接続するケーブルの長さ、本製品とリピーターやスイッチを接続するケーブルの長さはすべて100m以内です。



1

はじめに

コンソールを接続する

コンソールを使用して内蔵ソフトウェアにアクセスする場合は、同梱のRS-232クロスケーブルで、本体前面ターミナルポートとコンソール側のRS-232コネクタを接続します。

i ターミナルエミュレーションソフトの設定については、次章の「ソフトウェアの設定」で説明します。

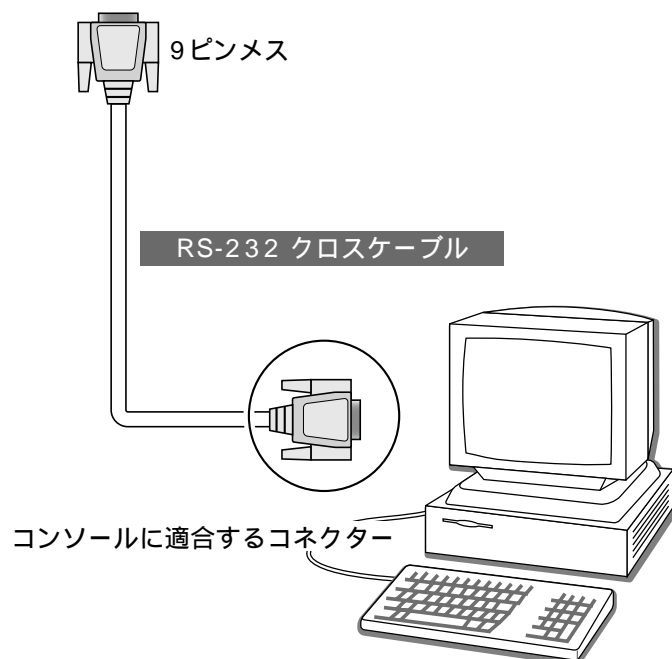
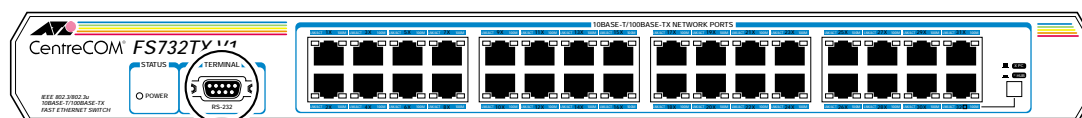
コンソール

コンソールは、VT-100互換のターミナルエミュレータを実行するRS-232コネクタ付きPCおよびワークステーション、またはRS-232コネクタ付き非同期ターミナルのご使用をお勧めします。

ケーブル

ケーブルは、同梱のRS-232クロスケーブル(9ピンメス-9ピンメス)を使用します。

ターミナルポート 9ピンオス

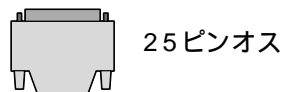
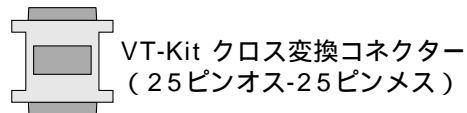
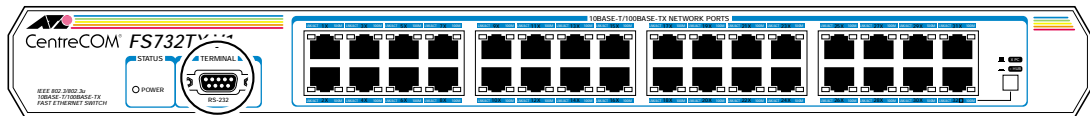


VT-Kit を使用する場合

弊社では、PCをコンソールとして使用するためのVT-100エミュレーションとRS-232 ケーブルをセットにした商品「VT-Kit」を販売しております。

弊社 VT-Kitを使用する場合は、図のように本製品とコンソールを接続します。VT-Kitは、PC-9800シリーズ、およびDOS/V機のいずれのPCでもご使用いただくことができます。

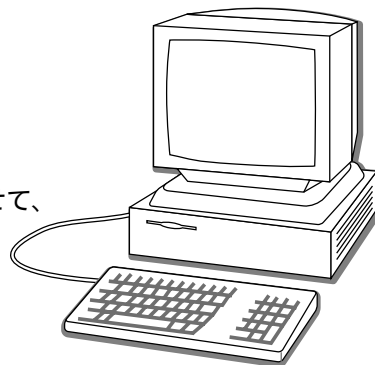
- セット内容：
- ・RS-232 ストレートケーブル(25 ピンオス -25 ピンオス)
 - ・各種変換コネクタ
 - ・VTTERM(MS-DOS 版端末エミュレーション)

ターミナルポート
9ピンオス

VT-Kit RS-232 ストレートケーブル

25ピンオス

コンソール
ご使用のコンソールのコネクタに合わせて、
変換コネクタを使用してください。

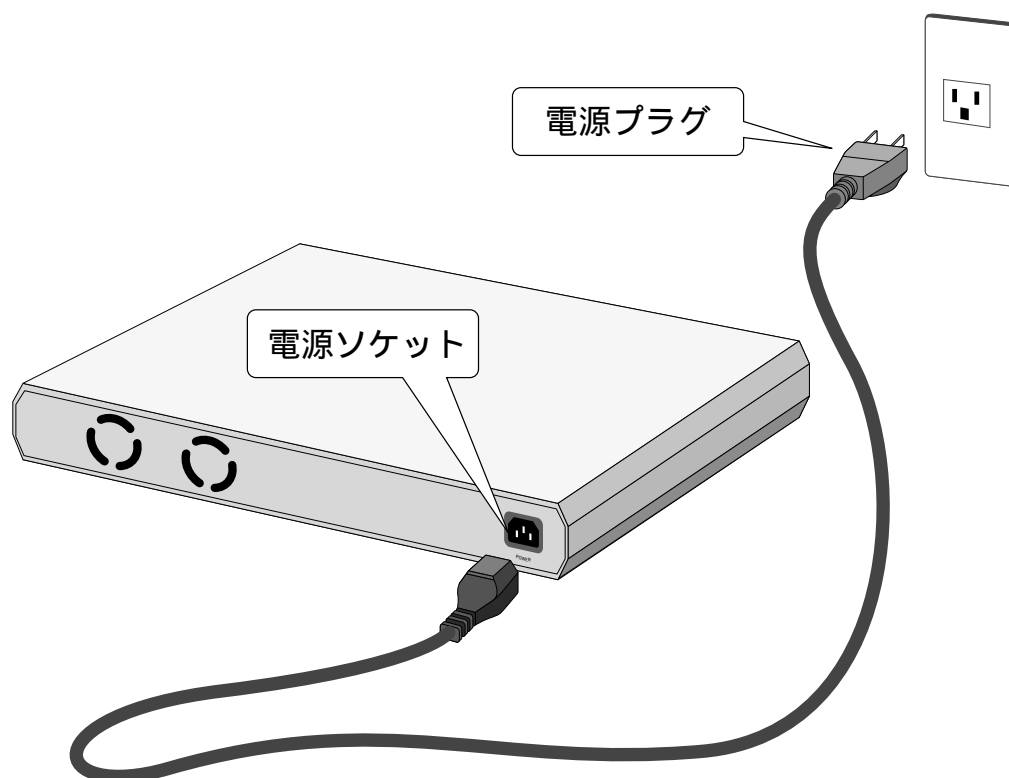


電源ケーブルを接続する

本製品は電源ケーブルを接続すると、自動的に電源が入ります。

▶ 本体の起動

- 1 電源ケーブルの電源ソケットを本体背面の電源コネクタに接続します。
- 2 電源ケーブルの電源プラグを電源コンセントに接続します。
- 3 電源が入ると、POWER LED が緑に点灯します。



電源を切る場合は、電源プラグを電源コンセントから抜きます。
電源プラグに電源コンセントを接続したまま、電源ソケットを抜かないでください。

⚡ 本製品をAC100V-120Vで使用する場合は、同梱の電源ケーブルを使用してください。

また、指定された電源電圧以外で使用しないでください。

不適切な電源ケーブルや電源コンセントを使用すると、発熱による発火や感電の恐れがあります。

2

ソフトウェアの設定

この章では、本製品に対する設定を行うためのターミナルソフトウェアの設定方法、メニューの操作、各機能と設定内容について説明しています。

1 ターミナルソフトの設定

PC(ワークステーション)をターミナルとして使用するためのターミナルエミュレーション・ソフトウェアとして、次の3つの設定方法を説明します。
(コンソール用RS-232 クロスケーブルは、COM1 に接続することとします。)

弊社 VTTERM

Windows 3.1 標準プログラム「ターミナル」

Windows 95/98/2000、Windows NT 標準プログラム「ハイパーターミナル」

VTTERM の設定手順

弊社VTTERM(VT-Kit)をご使用の場合、DOS プロンプトから次のコマンドを入力して、【Enter】キーを押します。

```
C:¥>VTTERM
```

VTTERM が起動し、初期画面が表示されます。

VTTERM のデフォルトの設定は、本製品の通信条件を満たしていますので、特に設定をする必要はありません。

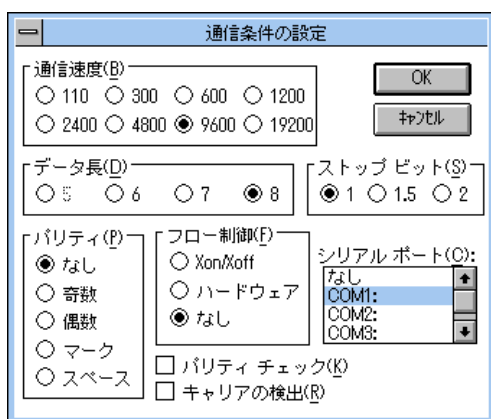
【Enter】キーを数回押すと、内蔵ソフトウェアのメインメニューが表示されます。

2

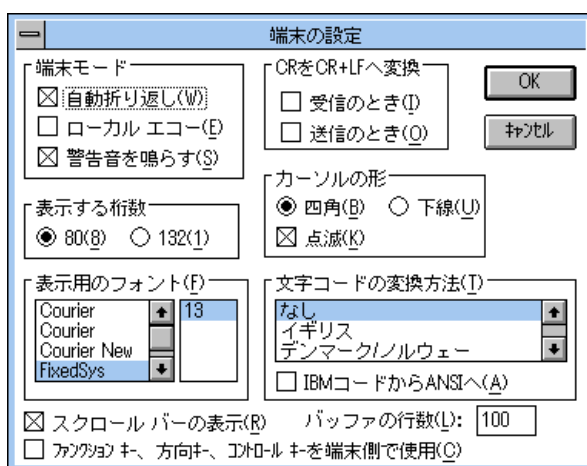
Windows 3.1 の「ターミナル」の設定手順

Windows 3.1 が動作するPCでは、ターミナルエミュレーション・ソフトウェアとして標準装備の「ターミナル」(Terminal.exe)を使用することができます。

- 1 [プログラムマネージャ] -> [アクセサリ] 内の「ターミナル」をダブルクリックします。
- 2 [設定]メニューから[通信条件]を選択すると、「通信条件の設定」ダイアログボックスが表示されます。下図のように設定して、[OK]ボタンをクリックします。

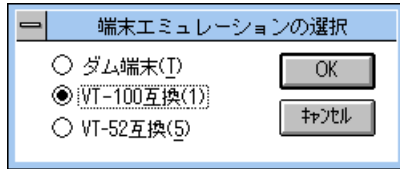


- 3 [設定]メニューから[端末の設定]を選択すると、「端末の設定」ダイアログボックスが表示されます。下図のように設定して、[OK]ボタンをクリックします。



1 ターミナルソフトの設定

- 4 [設定]メニューから[端末エミュレーション]を選択すると、「端末エミュレーションの選択」ダイアログボックスが表示されます。
下図のように設定して、[OK]ボタンをクリックします。



- 5 [電話]メニューから[ダイヤル]を選択し、電話番号を指定せずに[OK]ボタンをクリックします。
- 6 以上で設定が終わりました。
【Enter】キーを数回押すと、内蔵ソフトウェアのセッションが開始され、メインメニューが表示されます。

2

Windows 95/98/2000、Windows NT の「ハイパーターミナル」の設定手順

Windows 95/98/2000、Windows NT が動作するPCやワークステーションでは、ターミナルエミュレーション・ソフトウェアとして標準装備の「ハイパーターミナル」(Hypertrm.exe)を使用することができます。

- 1 Windows 95 の場合 - [スタート] メニューの中から [プログラム] -> [アクセサリ] -> [ハイパーターミナル] を選択して、ハイパーターミナルフォルダ内の「Hypertrm.exe」をダブルクリックして起動します。

Windows 98/2000 の場合 - [スタート] メニューの中から [プログラム] -> [アクセサリ] -> [通信] -> [ハイパーターミナル] を選択して、起動します。

Windows NT の場合 - [スタート] メニューの中から [プログラム] -> [アクセサリ] -> [ハイパーターミナル] -> [ハイパーターミナル] を選択して、起動します。

- 2 「接続の設定」ダイアログボックスで、適切な名前を入力し、アイコンを選んで、[OK] ボタンをクリックします。
モデムのインストールをするかどうかを問うダイアログボックスが表示された場合は、[いいえ] をクリックします。

- 3 Windows 95 の場合 - 「電話番号」ダイアログボックスが表示されます。
[接続方法] の欄で、[COM1 へダイレクト] を選択して、[OK] ボタンをクリックします。

Windows 98/2000 の場合 - 「接続の設定」ダイアログボックスが表示されます。
[接続方法] の欄で、[COM1 へダイレクト] を選択して、[OK] ボタンをクリックします。

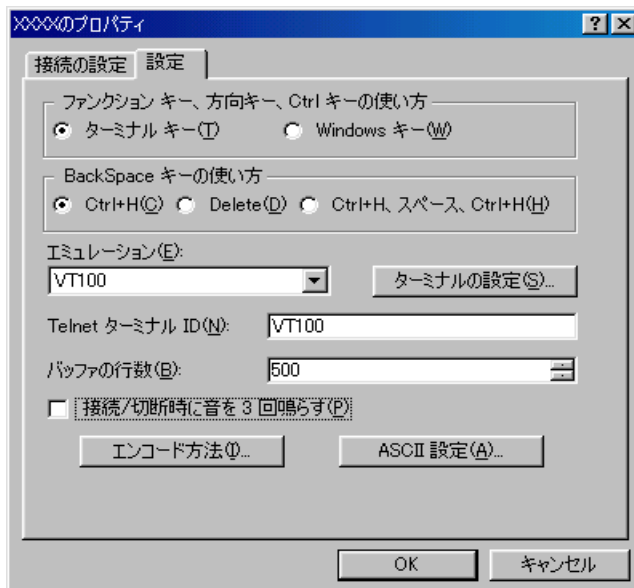
Windows NT の場合 - 「接続の設定」ダイアログボックスが表示されます。
[ポートの設定] タブの [接続方法] の欄で、[COM1] を選択して、[OK] ボタンをクリックします。

1 ターミナルソフトの設定

- 4 「COM1 のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。下図のように設定して、[OK] ボタンをクリックします。



- 5 「XXXX- ハイパーターミナル」のような、先ほど設定した名称のウィンドウが表示されます。
[ファイル] メニューの中から [プロパティ] を選択すると、「XXXX のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
[設定] タブを下図のように設定して、[OK] ボタンをクリックします。



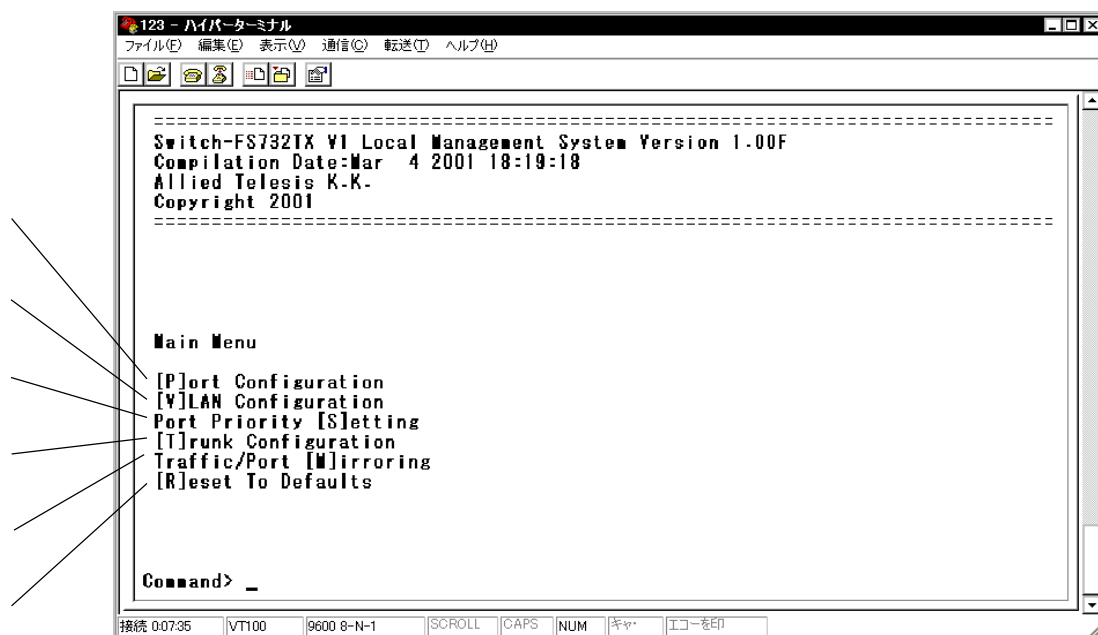
- 6 以上で設定が終わりました。
【Enter】キーを数回押すと、内蔵ソフトウェアのメインメニューが表示されます。

2 メニューの設定

ここでは本製品の内蔵ソフトウェアを使って各種設定を行う方法を説明します。

メインメニュー

本製品のメインメニューには、以下のサブメニュー項目が表示されます。
各サブメニュー項目と設定内容の概要を、上から順に説明していきます。



2

ソフトウェアの設定

Port Configuration

「ポート設定サブメニュー - Port Configuration Menu」(2-10)参照

ポート設定[P]を入力してサブメニュー画面を表示)

Set Mode

各ポート(1 ~ 32)の通信モードと速度を設定します。

Set Status

各ポート(1 ~ 32)の通信有効・無効を設定します。

Set Flow Control

各ポート(1 ~ 32)のフローコントロールの有効・無効を設定します。

VLAN Configuration

「バーチャル LAN 設定サブメニュー - VLAN Management Menu」(2-15)参照

バーチャル LAN 設定[V]を入力してサブメニュー画面を表示)

Add VLAN Member

VLAN グループ(1 ~ 32)に割り当てるポートを指定します。

Delete VLAN Member

VLANグループ(1 ~ 32)に割り当てたポートを削除します。

Port Based List Menu

ポート番号別に、割り当てられたVLANグループを表示します。

Port Priority Setting

「ポートプライオリティ設定サブメニュー - Port Priority Setting Menu」(2-19)参照

ポートプライオリティ設定[S]を入力してサブメニュー画面を表示)

Select Traffic Class

各ユーザープライオリティ値に割り当てるキューを設定します。

Weight Setting Menu

各キューに割り当てる帯域を設定します。

Trunk Configuration

「ポートトランキング設定サブメニュー - Trunk Configuration Menu」(2-23)参照

ポートトランキング設定[T]を入力してサブメニュー画面を表示)

Add Trunk Member

トランクグループ(1 ~ 8)に割り当てるポートを指定します。

Remove Trunk Member

トランクグループ(1 ~ 8)に割り当てたポートを削除します。

Set Trunk status

トランクグループごとに、トランキング機能の有効・無効を設定します。

Traffic/Port Mirroring

「ポートミラーリング設定サブメニュー - Traffic/Port Mirroring Menu」(2-27)参照

ポートミラーリング設定[M]を入力してサブメニュー画面を表示)

Set Destination Port

モニタリング用のデバイスを接続するミラーポートを指定します。

Set Source Port

パケット解析を行うソースポートを指定します。

Enable/Disable Port Monitoring

ミラーポート機能の有効・無効を設定します。

Reset To Defaults

「初期値リセット - Reset To Defaults」(2-30)参照

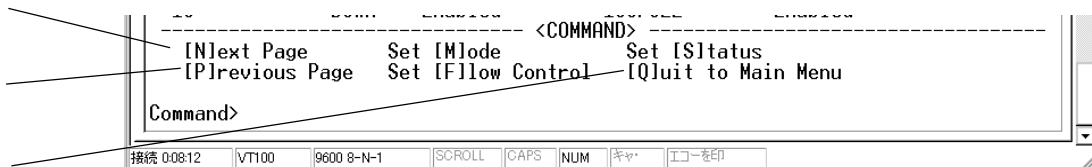
初期値にリセット[R]を入力。サブメニュー画面なし)

設定済みの内容を、本製品出荷時の初期値にリセットします。

2 メニューの設定

サブメニューのコマンド共通操作

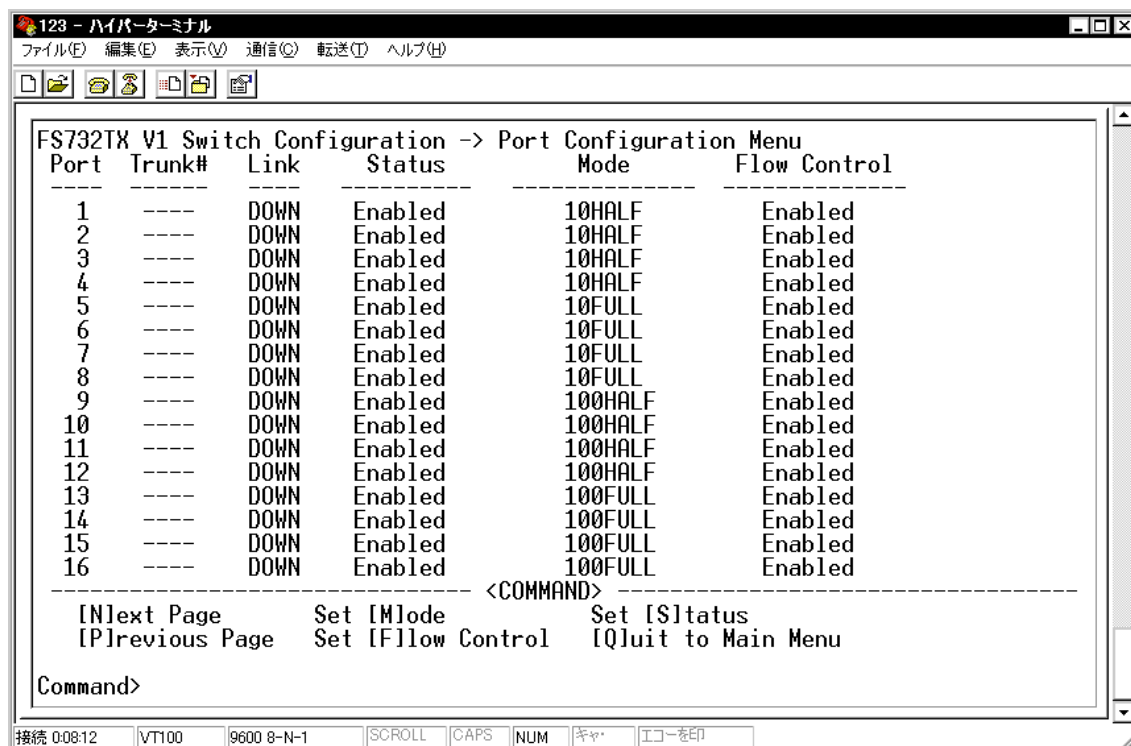
ここではサブメニューの共通操作方法を説明します。「ポート設定サブメニュー」画面を例に説明します。



- [N]ext Page([N]を入力)
次ページを表示します。
- [P]revious Page([P]を入力)
前ページを表示します。
- [Q]uit to Main Menu([Q]を入力)
メインメニューに戻ります。

ポート設定サブメニュー - Port Configuration Menu

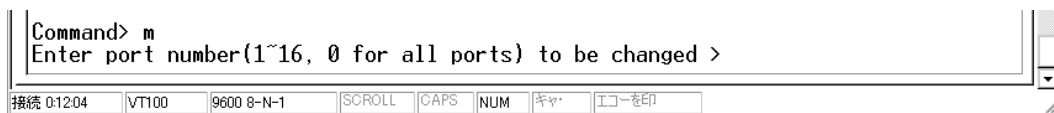
メインメニューで [P] を入力すると、ポート設定サブメニュー画面が表示されます。



Set Mode - 通信モードと速度設定

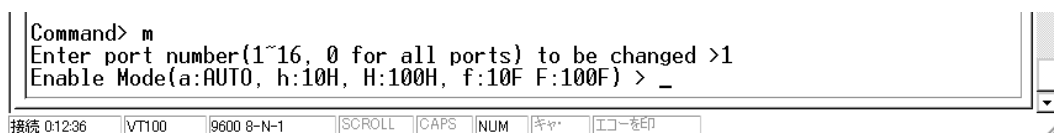
各ポート(1 ~ 32)の通信モードと速度を設定します。デフォルトはAUTOです。

- 1 「Command」欄に「M」を入力します。
ポート番号の入力欄が表示されます。



- 2 通信モードと速度を設定したいポート番号を入力します。
ここでは「1」を入力します。ポート番号を入力すると、通信モードと速度の入力欄が表示されます。

- i** ・1 ~ 32のポート番号を入力します。入力できるのは、画面に表示されているポート番号だけです。入力したいポート番号が表示されていないときは、[N] 次のページが表示されます) または[P] 前のページが表示されます) を押して、入力したいポート番号を表示させてください。
- ・0を入力すると、すべてのポートに同じ通信モードと速度を設定することができます。



- 3 通信モードと速度を設定します。
ここでは「a」を入力します。【Enter】キーを押すと、ポートに通信モードと速度が設定されます。

- ・[a] (AUTO) を入力: 接続先の通信機器に応じて、通信速度(10Mbps / 100Mbps) 通信モード(Half duplex/Full duplex) を自動検出し、最適な設定で接続します。
- ・[h] (10H) を入力: 通信速度10Mbps、通信モードHalf duplex (半二重) 固定になります。
- ・[H] (100H) を入力: 通信速度100Mbps、通信モードHalf duplex (半二重) 固定になります。
- ・[f] (10F) を入力: 通信速度10Mbps、通信モードFull duplex (全二重) 固定になります。
- ・[F] (100F) を入力: 通信速度100Mbps、通信モードFull duplex (全二重) 固定になります。

2 メニューの設定

```
Command> m
Enter port number(1~16, 0 for all ports) to be changed >1
Enable Mode(a:AUTO, h:10H, H:100H, f:10F F:100F) > a
Configuring the system, Please wait..._
```

```
FS732TX V1 Switch Configuration -> Port Configuration Menu
Port Trunk# Link Status Mode Flow Control
-----
1 ---- DOWN Enabled AUTO Enabled
2 ---- DOWN Enabled 10HALF Enabled
3 ---- DOWN Enabled 100FULL Enabled
```

2

i 通信モードは、必ず接続先の機器を確認して、次の表の 印の組み合わせになるように設定してください。

相手ポート		10M		100M		Auto
		Half	Full	Half	Full	
FS732TX V1 自ポート	10M					
	100M					
Auto						

Set Status - ポートの通信有効・無効設定

各ポート(1 ~ 32)の有効・無効を設定します。デフォルトはEnable です。

- 1 「Command」欄に「S」を入力します。
ポート番号の入力欄が表示されます。

```
Command> s
Enter port number(1~16, 0 for all ports) to be changed >_
```

- 2 通信の有効・無効を設定したいポート番号を入力します。
ここでは「1」を入力します。ポート番号を入力すると、通信の有効・無効を設定する入力欄が表示されます。

- i**
- ・1 ~ 32 のポート番号を入力します。入力できるのは、画面に表示されているポート番号だけです。入力したいポート番号が表示されていないときは、[N] (次のページが表示されます) または [P] (前のページが表示されます) を押して、入力したいポート番号を表示させてください。
 - ・0 を入力すると、すべてのポートを通信有効、または無効に設定することができます。

```
Command> s
Enter port number(1~16, 0 for all ports) to be changed >1
Enable or Disable port 1 (E/D) > _
```

3 通信の有効・無効を設定します。

ここでは「d」を入力します。【Enter】キーを押すと、ポートに通信の有効・無効が設定されます。

- ・[e] (Enable) を入力 : 手順2 で指定したポートの通信を有効にします。
- ・[d] (Disable) を入力 : 手順2 で指定したポートの通信を無効にします。

```
Command> s
Enter port number(1~16, 0 for all ports) to be changed >1
Enable or Disable port 1 (E/D) > d
Configuring the system, Please wait..._
```

123 - ハイパーターミナル

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 通信(C) 転送(T) ヘルプ(H)

FS732TX V1 Switch Configuration -> Port Configuration Menu						
Port	Trunk#	Link	Status	Mode	Flow Control	
1	----	DOWN	Disabled	10HALF	Enabled	
2	----	DOWN	Enabled	10HALF	Enabled	
3	----	DOWN	Enabled	10HALF	Enabled	

2 メニューの設定

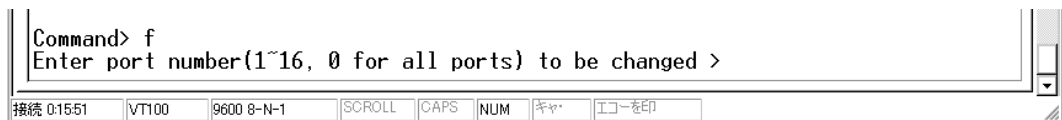
Set Flow Control - フローコントロールの有効・無効設定

各ポート(1 ~ 32)のフローコントロールの有効・無効を設定します。デフォルトは Enable です。

フローコントロール機能とは、同一スイッチ内で受信ポートの転送速度が送信ポートの転送速度を上回る場合や、受信したパケットの送出が特定のポートに集中する場合などに、バッファのオーバーフローによるパケットロスを未然に防ぐための機能です。バッファメモリーを監視し、空きが減少してくると、Half duplex 時はジャム信号を、Full duplex 時はPAUSE パケットを受信ポートから送出し、接続機器からの送信を一時的に停止させることで、フロー制御を行います。

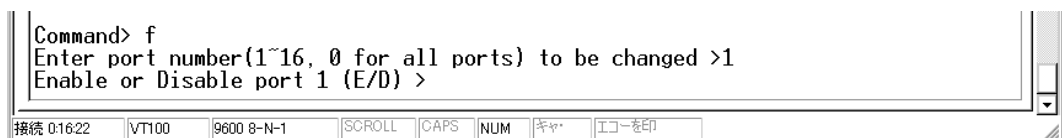
i Full duplex 時のフローコントロールは、接続先の機器も IEEE 802.3x PAUSE 準拠のフローコントロールをサポートしている場合に限り機能します。

- 1 「Command」欄に「F」を入力します。
ポート番号の入力欄が表示されます。



- 2 フローコントロールの有効・無効を設定したいポート番号を入力します。
ここでは「1」を入力します。ポート番号を入力すると、フローコントロールの有効・無効を設定する入力欄が表示されます。

i ・1 ~ 32 のポート番号を入力します。入力できるのは、画面に表示されているポート番号だけです。入力したいポート番号が表示されていないときは、[N] 次のページが表示されます) または [P] 前のページが表示されます) を押して、入力したいポート番号を表示させてください。
・0を入力すると、すべてのポートのフローコントロールを有効、または無効に設定することができます。



- 3 フローコントロールの有効・無効を設定します。
ここでは「d」を入力します。【Enter】キーを押すと、ポートのフローコントロールの有効・無効が設定されます。

- ・[e](Enable) を入力: 手順 2 で指定したポートのフローコントロール (Half duplex 時はバックプレッシャー、Full duplex 時はIEEE802.3x PAUSE)を有効にします。
- ・[d](Disable) を入力: 手順 2 で指定したポートのフローコントロールを無効にします。

```
Command> f
Enter port number(1~16, 0 for all ports) to be changed >1
Enable or Disable port 1 (E/D) > d
Configuring the system, Please wait...
```

Port	Trunk#	Link	Status	Mode	Flow Control
1	---	DOWN	Enabled	10HALF	Disabled
2	---	DOWN	Enabled	10HALF	Enabled
3	---	DOWN	Enabled	10HALF	Enabled

2 メニューの設定

バーチャルLAN 設定サブメニュー - VLAN Management Menu

バーチャルLAN(VLAN)は、スイッチ内で仮想的に独立したLANを構築する機能です。

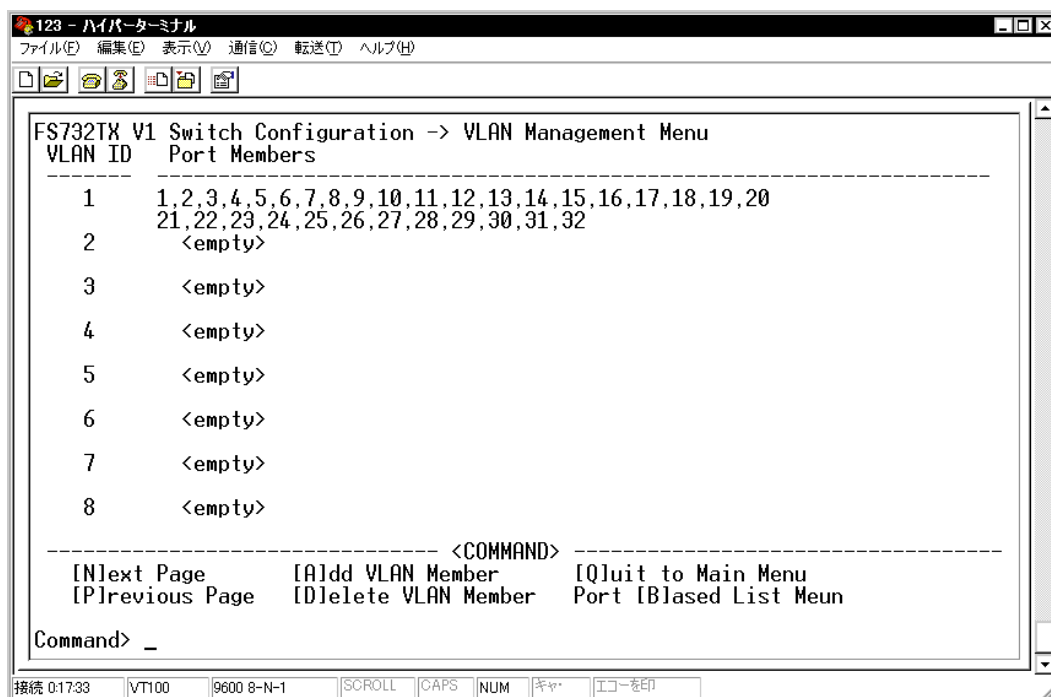
通常、スイッチのすべてのポートは同一のブロードキャストドメイン(ブロードキャストパケットが届く範囲のネットワーク)に属します。

一方、VLANでは、ブロードキャストパケットの届く範囲を制限し、通信可能なグループに論理的に分割することにより、各グループごとに別々のスイッチに接続するのと同様のネットワークを構成することができます。

論理的にグループ分けを行うため、物理的な構成に依存することなく、自由なネットワーク設計が可能になるという利点があります。

本製品は32個までのVLANグループを設定することができます。個々のポートは同時に複数のVLANグループに属することができ、互いに重複したVLANグループを形成することができます。

メインメニューで[V]を入力すると、バーチャルLAN設定サブメニュー画面が表示されます。



```
FS732TX V1 Switch Configuration -> VLAN Management Menu
VLAN ID  Port Members
-----
 1      1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20
        21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32
 2      <empty>
 3      <empty>
 4      <empty>
 5      <empty>
 6      <empty>
 7      <empty>
 8      <empty>

----- <COMMAND> -----
 [N]ext Page      [A]dd VLAN Member      [Q]uit to Main Menu
 [P]revious Page  [D]elete VLAN Member   Port [B]ased List Meun

Command> _
```

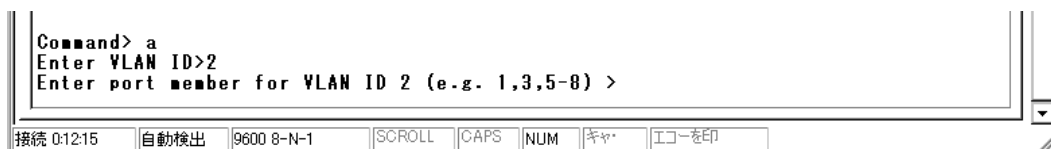

Add VLAN Member - バーチャルLAN(VLAN)ポート設定

VLAN グループ(1 ~ 32)に割り当てるポートを指定します。
デフォルトではすべてのポートがVLAN グループ「1」に割り当てられています。

- 1 「Command」欄に「A」を入力します。
VLAN グループの入力欄が表示されます。

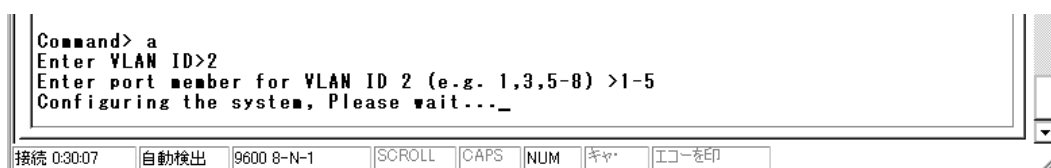


- 2 ポートを指定したいVLAN グループ番号(1 ~ 32)を入力します。
ここでは「2」を入力します。VLAN グループ番号を入力すると、ポート番号の入力欄が表示されます。



- 3 VLAN グループ番号に割り当てるポート番号を入力します。
ここでは「1-5」を入力します。【Enter】キーを押すと、VLAN グループにポートが設定されます。

- i** ポート番号は、1 ~ 32 まで入力できます。「1,2,3」のようにカンマ(,)で区切って入力するか、「1-5」のようにハイフン(-)で範囲を指定して入力します。



VLAN ID	Port Members
1	1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15,16,17,18,19,20 21,22,23,24,25,26,27,28,29,30,31,32
2	1,2,3,4,5
3	<empty>

- i** 本製品は1つのポートを複数のVLANグループに割り当てることができます。上記の手順で、VLANグループ「2」にポート1 ~ 5を登録した場合、VLANグループ「1」からポート1 ~ 5が削除されていないことにご注意ください。

2 メニューの設定

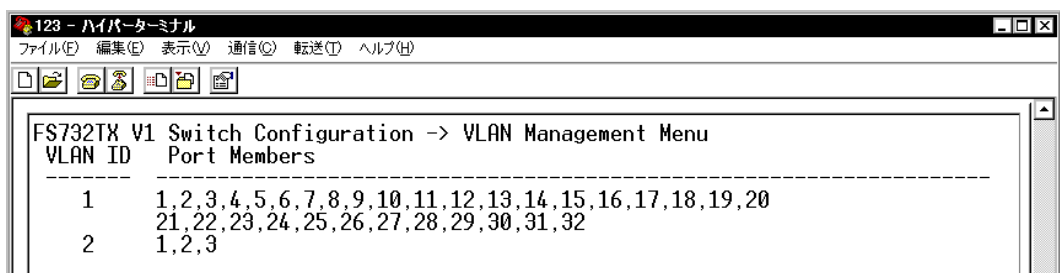
Delete VLAN Member - バーチャル LAN (VLAN) ポート削除設定

VLAN グループ (1 ~ 32) に割り当てたポートを削除します。

i ポートはいずれかの VLAN に所属している必要があります。

例えば、VLAN グループ「1」からポート 1, 2, 3 を削除する場合は、別の VLAN グループ (例えば VLAN グループ「2」など) にポート 1, 2, 3 をあらかじめ追加しておきます。

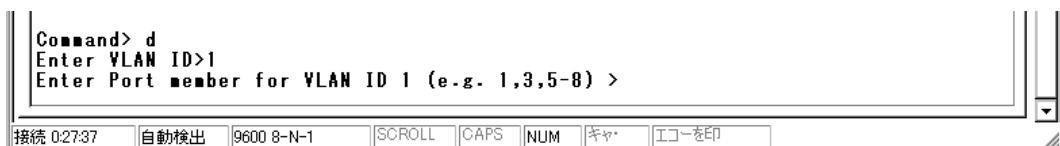
- 1 Add VLAN メンバーの 1、2 の作業を繰り返します。
- 2 VLAN グループ番号に割り当てるポート番号を入力します。
ここでは「1, 2, 3」を入力します。【Enter】キーを押すと、VLAN グループ「2」にポートが設定されます。



- 3 「Command」欄に「D」を入力します。
VLAN グループの入力欄が表示されます。



- 4 ポートを削除したい VLAN グループ番号 (1 ~ 32) を入力します。
ここでは「1」を入力します。VLAN グループ番号を入力すると、ポート番号の入力欄が表示されます。



- 5 VLAN グループ番号から削除するポート番号を入力します。
ここでは「1, 2, 3」を入力します。【Enter】キーを押すと、VLAN グループ「1」からポート1, 2, 3 が削除されます。

i ポート番号は、1 ~ 32 まで入力できます。「1,2,3」のようにカンマ(,)で区切って入力するか、「1-5」のようにハイフン(-)で範囲を指定して入力します。

```
Command> d
Enter VLAN ID>1
Enter Port member for VLAN ID 1 (e.g. 1,3,5-8) >1,2,3
Configuring the system, Please wait..._
```

```
FS732TX V1 Switch Configuration -> VLAN Management Menu
VLAN ID  Port Members
-----
1      4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15,16,17,18,19,20,21,22,23
2      24,25,26,27,28,29,30,31,32
1,2,3
```

Port Based List Menu - ポート番号別割当て VLAN グループ確認

ポート番号別に、割り当てられた VLAN グループを表示します。

- 1 「Command」欄に「B」を入力します。
ポート番号別に、そこに割り当てられた VLAN グループが表示されます。

```
Command> b
```

```
FS732TX V1 Switch Configuration -> VLAN Management Menu
PORT NO  VLAN ID
-----
1      1
2      1
3      1
4      1
5      1
6      1
7      1
8      1

<COMMAND>
[I]Next Page      [P]revious Page      [Q]uit to VLAN Managemen Menu
Command>
```

2 メニューの設定

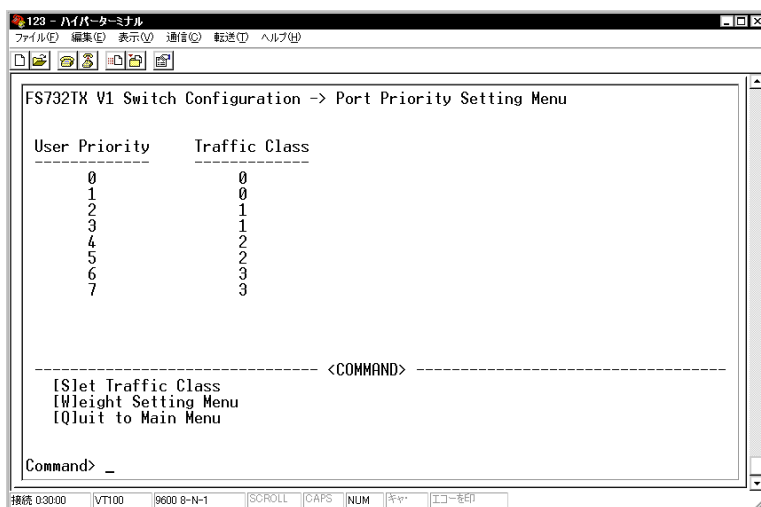
ポートプライオリティ設定サブメニュー - Port Priority Setting Menu

QoS(Quality of Service)機能に関する設定を行います。

IEEE802.1p 準拠のプライオリティ・タグ・フレームには0 ~ 7の8レベルでユーザープライオリティが設定されています。ユーザープライオリティの値に従って、パケットを送信先へ転送するまでキューイングさせることにより、トラフィックごとに異なるサービス品質レベルを提供します。

本製品はポートごとに0 ~ 3の4レベルのキュー(トラフィッククラス)を持ちます。プライオリティキューの設定を行うことによって、ユーザープライオリティとキューの対応付け(マッピング)をカスタマイズすることができます。また、各キューの帯域の割合を変更することも可能です。この機能を利用すると、異なるトラフィッククラスがあるネットワークで、限られた帯域幅を有効に利用することができます。ユーザープライオリティ、およびキューは値が大きいほど優先度が高くなります。

メインメニューで[S]を入力すると、ポートプライオリティ設定サブメニュー画面が表示されます。



- ・タグ無しパケットは、ユーザープライオリティ「0」として処理されます。
- ・ポートプライオリティの設定はすべてのポートに適用されます。

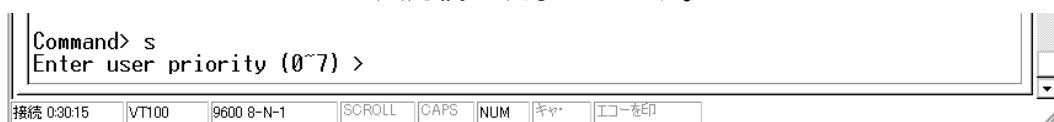
Select Traffic Class - プライオリティキュー設定

各ユーザープライオリティ値に割り当てるキューを設定します。
プライオリティキューはデフォルトで次のように設定されています。

ユーザープライオリティ	キュー(トラフィッククラス)
0	0
1	0
2	1
3	1
4	2
5	2
6	3
7	3

- 1 「Command」欄に「S」を入力します。
ユーザープライオリティの入力欄が表示されます。

```
Command> s
Enter user priority (0~7) >
```



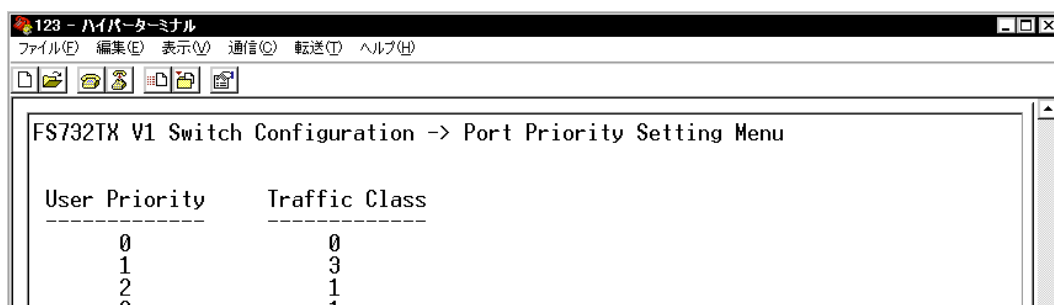
- 2 ユーザープライオリティの値(0~7)を入力します。
ここでは「1」を入力します。ユーザープライオリティの値を入力すると、
キュー(トラフィッククラス)の入力欄が表示されます。

```
Command> s
Enter user priority (0~7) >1
Enter Traffic Class (0~3) >
```



- 3 キュー(0~3)を入力します。
ここでは「3」を入力します。【Enter】キーを押すと、ユーザープライオリティ
値に割り当てるキューが設定されます。

```
Command> s
Enter user priority (0~7) >1
Enter Traffic Class (0~3) >3
Configuring the system, Please wait..._
```



User Priority	Traffic Class
0	0
1	0
2	1
3	1

2 メニューの設定

Weight Setting Menu - プライオリティウェイト設定

各キューに割り当てる帯域を設定します。

デフォルトの割合は、優先度の高い順に15:7:3:1です。値は各キューで処理されるパケット数を意味します。キュー3のパケットを15個処理したあと、順にキュー2で7個、キュー1で3個、キュー0で1個のパケットを処理します。

- 1 「Command」欄に「W」を入力します。
「Priority Weight Setting Menu」が表示されます。

```
Command> W
```

```
FS732TX V1 Switch Configuration -> Priority Weight Setting Menu

Queue      Weight
-----
0           1
1           3
2           7
3          15

0 : Lowest
3 : Highest

----- <COMMAND> -----
[S]Set Weight
[Q]uit to Priority Setting Menu

Command> _
```

- 2 「Command」欄に「S」を入力します。
キューの入力欄が表示されます。

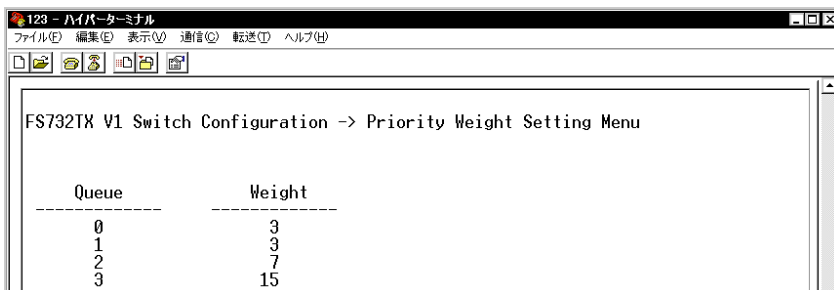
```
Command> s
Enter Queue (0~3) >
```

- 3 帯域を設定するキュー(0~3)を入力します。
ここでは「0」を入力します。キューに設定するウェイトの入力欄が表示されます。

```
Command> s
Enter Queue (0~3) >0
Enter Weight (0~3) >_
```

- 4 帯域(0 ~ 3)を入力します。
ここでは「3」を入力します。【Enter】キーを押すと、各キューに割り当てる帯域が設定されます。

```
Command> s
Enter Queue (0~3) >0
Enter Weight (0~3) >3
Configuring the system, Please wait...
```



Queue	Weight
0	3
1	3
2	7
3	15

- i**
- ・帯域の設定範囲(デフォルト)はキューによって以下のように異なります。
 - キュー 0(0 ~ 3)
 - キュー 1(1 ~ 7)
 - キュー 2(3 ~ 15)
 - キュー 3(7 ~ 15)
 - ・「Priority Weight Setting Menu」を終了して「Port Priority Setting Menu」に戻りたいときは、「Q」(Quit to Priority Setting Menu)を入力します。

2 メニューの設定

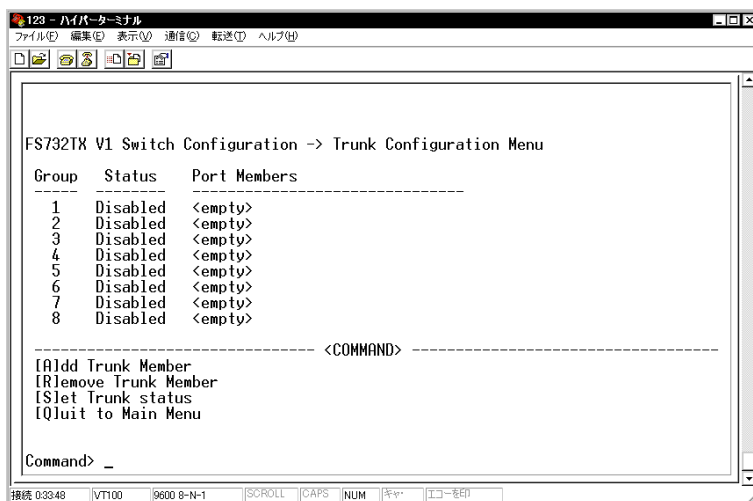
ポートランキング設定サブメニュー - Trunk Configuration Menu

ポートランキングに関する設定を行います。

ポートランキングは、複数の物理ポートを束ねて使用することにより、スイッチ間の帯域幅を拡大する機能で、主にトラフィックの集中によってボトルネックが発生しやすいバックボーンや、クライアントからのアクセスが集中するサーバに対して使用します。複数の物理ポートは、論理的に1本のポートとして取り扱われ、VLANからも単一のポートとして認識されます。このとき、常にVLANグループよりも、トランクグループが優先されるので、VLANの設定によって、トランクグループが分割されることはありません。

また、1本の物理リンクに障害が発生しても、残りのリンクによって通信を継続するという冗長機能も提供します。

メインメニューで[T]を入力すると、ポートランキング設定サブメニュー画面が表示されます。



- ▶ 本製品は同一機種同士のトランク接続が可能です。その他のトランク接続が可能な弊社製品については、弊社ホームページの「製品/動作検証リスト」でご確認ください。

弊社ホームページ <http://www.allied-telesis.co.jp/>

- ・ポートランキング機能は同一VLAN内でのみ有効となります。

Add Trunk Member - トランクグループポート設定

トランクグループ(1 ~ 8)に割り当てるポートを指定します。
1グループで1 ~ 4ポートをトランキングすることができます。最大で800Mbps の帯域を確保できます。

各トランクグループに設定可能なポートの範囲は以下のとおりです。

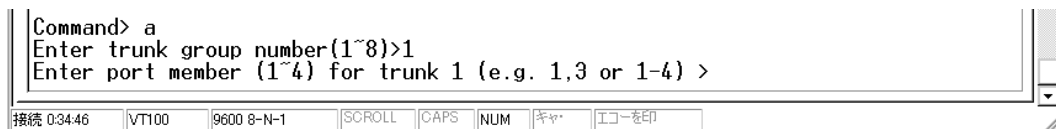
グループ 1	...ポート	1 ~ 4
グループ 2	...ポート	5 ~ 8
グループ 3	...ポート	9 ~ 12
グループ 4	...ポート	13 ~ 16
グループ 5	...ポート	17 ~ 20
グループ 6	...ポート	21 ~ 24
グループ 7	...ポート	25 ~ 28
グループ 8	...ポート	29 ~ 32

- 1 「Command」欄に「A」を入力します。
トランクグループの入力欄が表示されます。



```
Command> a
Enter trunk group number(1~8)>_
```

- 2 トランクグループ(1 ~ 8)を入力します。
ここでは「1」を入力します。トランクグループを入力すると、トランキングするポートの入力欄が表示されます。



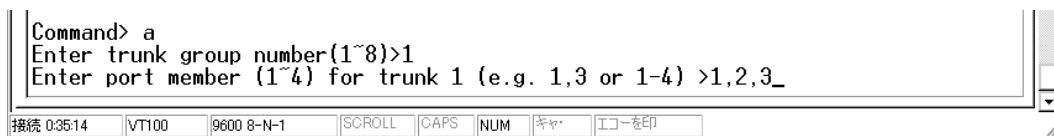
```
Command> a
Enter trunk group number(1~8)>1
Enter port member (1~4) for trunk 1 (e.g. 1,3 or 1-4) >
```

2 メニューの設定

- 3 トランキングするポート(1~4)を入力します。
ここでは「1,2,3」を入力します。【Enter】キーを押すと、トランクグループにポートがトランキングされます。

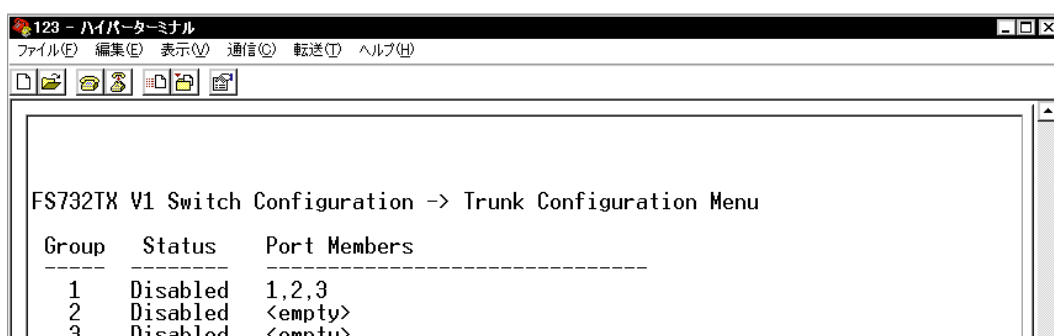
i ポートは「1,2,3」のようにカンマ(,)で区切って入力するか、「1-4」のようにハイフン(-)で範囲を指定して入力します。

```
Command> a
Enter trunk group number(1~8)>1
Enter port member (1~4) for trunk 1 (e.g. 1,3 or 1-4) >1,2,3_
```



```
123 - ハイパーターミナル
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 通信(C) 転送(T) ヘルプ(H)
FS732TX V1 Switch Configuration -> Trunk Configuration Menu
```

Group	Status	Port Members
1	Disabled	1,2,3
2	Disabled	<empty>
3	Disabled	<emntu>



Remove Trunk Member - トランクグループポート削除設定

トランクグループ(1 ~ 8)に割り当てたポートを削除します。

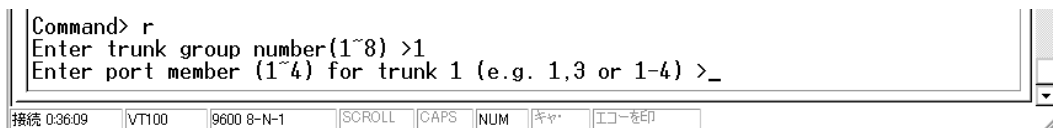
- 1 「Command」欄に「R」を入力します。
トランクグループの入力欄が表示されます。

```
Command> r
Enter trunk group number(1~8) >_
```



- 2 トランクグループ(1 ~ 8)を入力します。
ここでは「1」を入力します。トランクグループを入力すると、トランクグループから削除するポートの入力欄が表示されます。

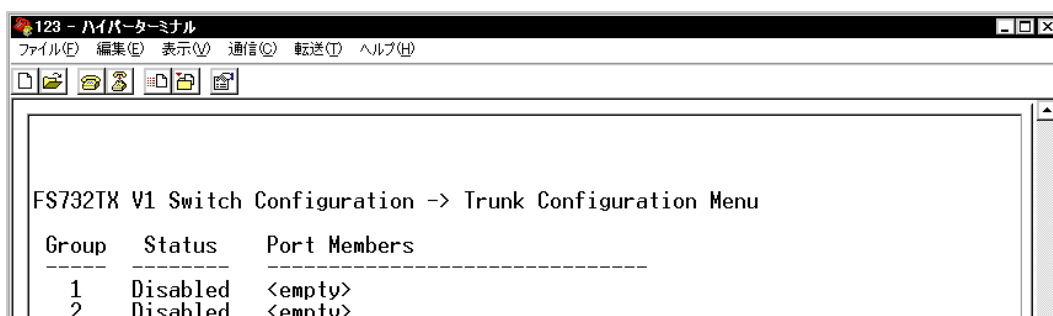
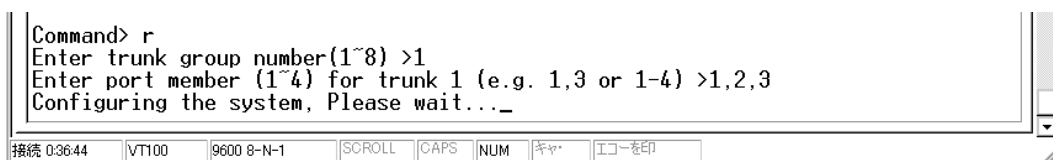
```
Command> r
Enter trunk group number(1~8) >1
Enter port member (1~4) for trunk 1 (e.g. 1,3 or 1-4) >_
```



- 3 トランクグループから削除するポートを入力します。
ここでは「1,2,3」を入力します。【Enter】キーを押すと、トランクグループからポートが削除されます。

i ポートは「1,2,3」のようにカンマ(,)で区切って入力するか、「1-4」のようにハイフン(-)で範囲を指定して入力します。

```
Command> r
Enter trunk group number(1~8) >1
Enter port member (1~4) for trunk 1 (e.g. 1,3 or 1-4) >1,2,3
Configuring the system, Please wait..._
```



```
FS732TX V1 Switch Configuration -> Trunk Configuration Menu
```

Group	Status	Port Members
1	Disabled	<empty>
2	Disabled	<empty>

2 メニューの設定

Set Trunk status - トランキング機能有効・無効設定


トランクグループごとに、トランキング機能の有効・無効を設定します。
デフォルトではすべてのグループでトランキング機能が無効に設定されています。

- 1 「Command」欄に「S」を入力します。
トランクグループの入力欄が表示されます。



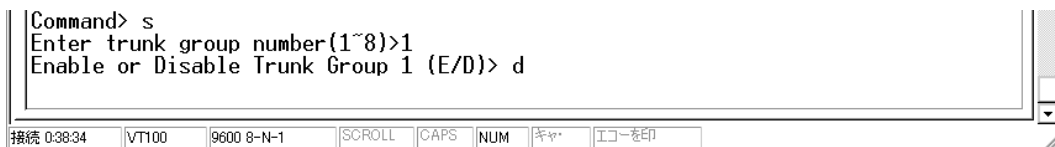
```
Command> s
Enter trunk group number(1~8)>_
```

- 2 トランクグループ(1~8)を入力します。
ここでは「1」を入力します。トランクグループを入力すると、トランキングの有効・無効の入力欄が表示されます。

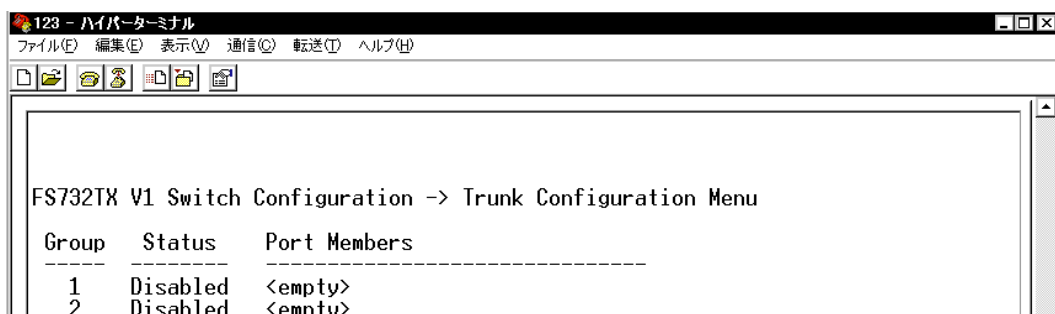


```
Command> s
Enter trunk group number(1~8)>1
Enable or Disable Trunk Group 1 (E/D)>
```

- 3 トランキングの有効・無効を入力します。
有効にするときは「E (Enable)」を入力します。無効にするときは「D (Disable)」を入力します。ここでは「D」を入力します。指定したトランクグループが有効、または無効になります。



```
Command> s
Enter trunk group number(1~8)>1
Enable or Disable Trunk Group 1 (E/D)> d
```



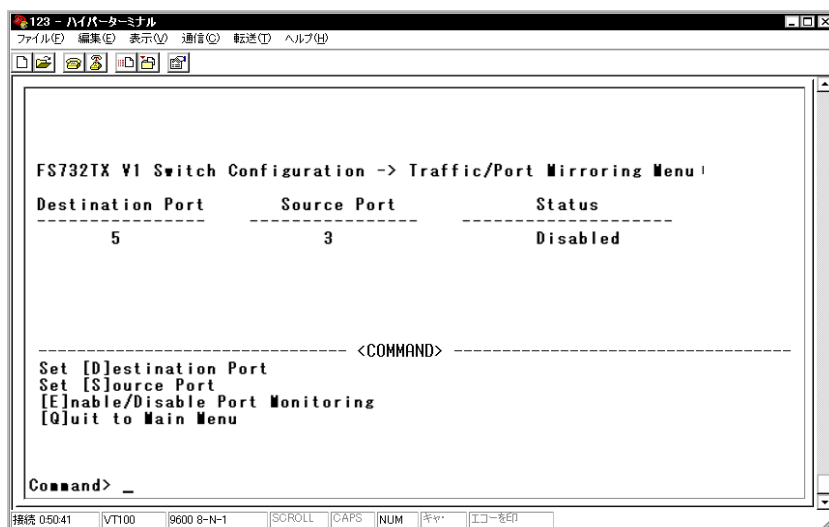
```
FS732TX V1 Switch Configuration -> Trunk Configuration Menu
```

Group	Status	Port Members
1	Disabled	<empty>
2	Disabled	<empty>

ポートミラーリング設定サブメニュー - Traffic/Port Mirroring Menu

任意のポートを通過するトラフィックを、指定した別のポートにコピーし、接続したモニタリング用のデバイスを通じて、パケット解析を行うことができます。障害の多発するポートやその他の問題の解析に有効です。

メインメニューで[M]を入力すると、ポートミラーリング設定サブメニュー画面が表示されます。

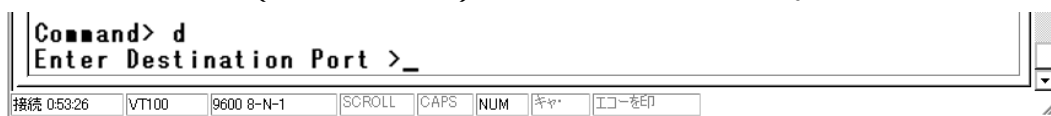


2

Set Destination Port - ミラーポート設定

モニタリング用のデバイスを接続するミラーポートを指定します。
このポートは通常のイーサネットポートとして機能するため、受信パケットがあったときは正常にフォワードされます。

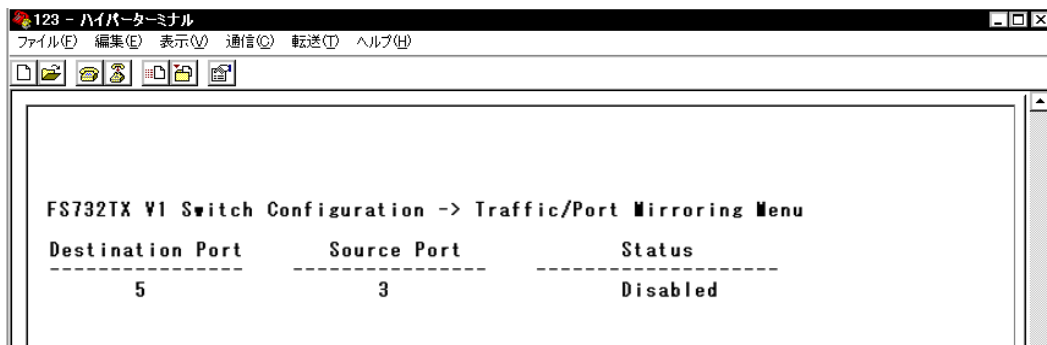
- 1 「Command」欄に「D」を入力します。
Destination Port (ミラーポート)の入力欄が表示されます。



- 2 Destination Port (ミラーポート)を入力します。
ここでは「5」を入力します。【Enter】キーを押すと、Destination Port (ミラーポート)が設定されます。



2 メニューの設定



Set Source Port - ソースポート設定

2

ソフトウェアの設定

パケット解析を行うソースポートを指定します。

Destination Port (ミラーポート)の送信と受信の合計レートがSource Port (ソースポート)の送信レートを超えたときは、Destination Port (ミラーポート)の設定によってそれぞれ以下の制限を受けます。

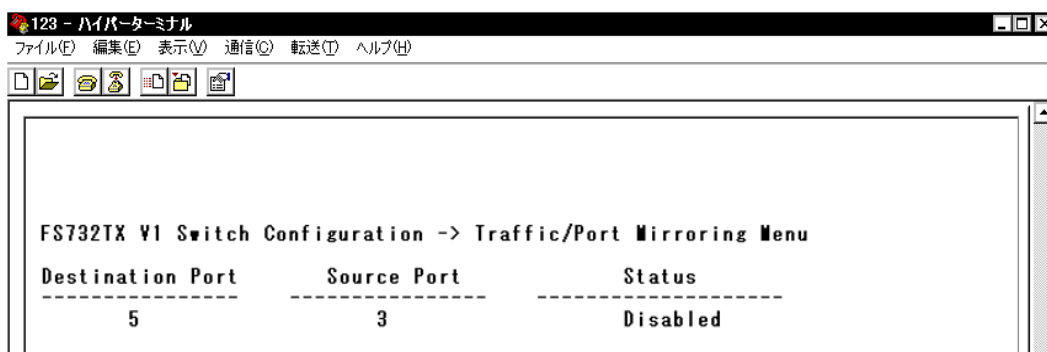
- ・Flow Control がEnable の場合 : 受信パケットをフローコントロールする。
- ・Flow Control がDisable の場合 : 受信 / 送信パケットを均等にロスする。

一回にミラーリングできるソースポートは1ポートのみです。

- 1 「Command」欄に「S」を入力します。
Source Port (ソースポート)の入力欄が表示されます。



- 2 Source Port (ソースポート)を入力します。
ここでは「3」を入力します。【Enter】キーを押すと、Source Port (ソースポート)が設定されます。

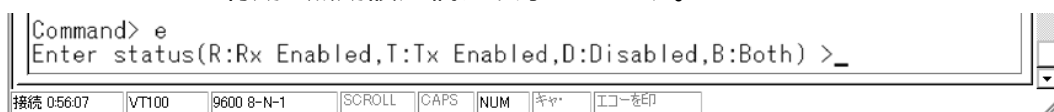


Enable/Disable Port Monitoring - ポートミラーリング機能有効・無効設定

ポートミラーリング機能の有効・無効を設定します。デフォルトはDisabled です。

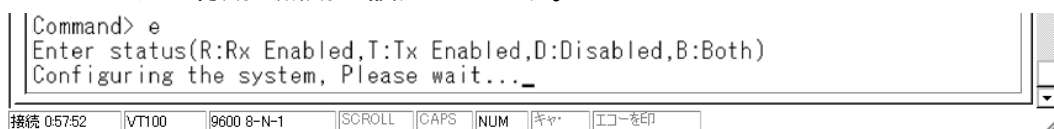
- ・[R](Rx Enabled) を入力 :受信パケットのミラーリングを有効にします。
- ・[T](Tx Enabled) を入力 :送信パケットのミラーリングを有効にします。
- ・[D](Disabled) を入力 :ポートミラーリングを無効にします。
- ・[B](Both) を入力 :送受信パケットのミラーリングを有効にします。

- 1 「Command」欄に「E」を入力します。
ミラーポートの有効・無効設定欄が表示されます。

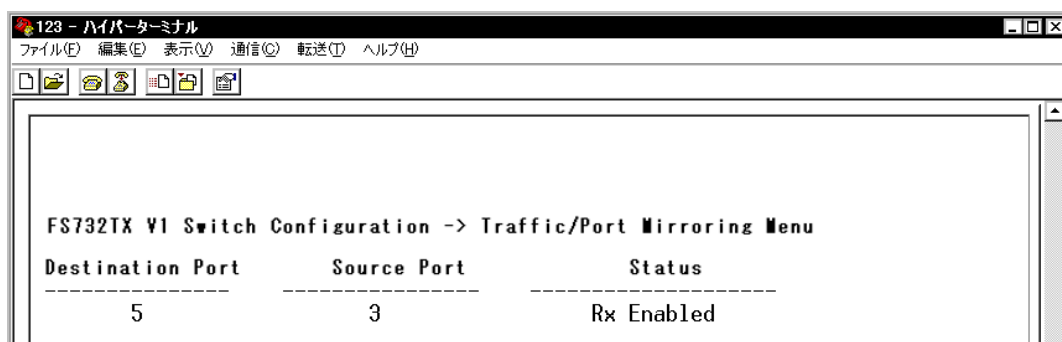


```
Command> e
Enter status(R:Rx Enabled,T:Tx Enabled,D:Disabled,B:Both) >_
```

- 2 有効・無効を入力します。
ここでは「R」(Rx Enabled)を入力します。【Enter】キーを押すと、ポートミラーリングの有効・無効が設定されます。



```
Command> e
Enter status(R:Rx Enabled,T:Tx Enabled,D:Disabled,B:Both)
Configuring the system, Please wait..._
```



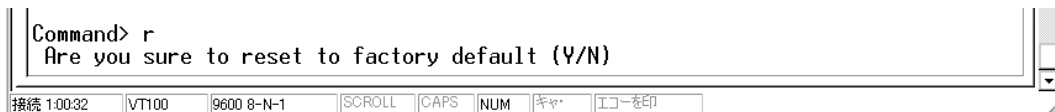
```
FS732TX V1 Switch Configuration -> Traffic/Port Mirroring Menu
Destination Port      Source Port      Status
-----
5                    3                Rx Enabled
```

2 メニューの設定

初期値リセット - Reset To Defaults

設定済みの内容を、本製品出荷時の初期値にリセットします。

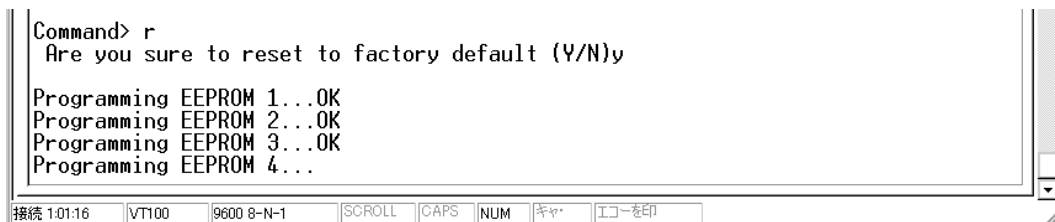
- 1 メインメニューで「Command」欄に「R」を入力します。
初期値リセットの確認欄が表示されます。



```
Command> r
Are you sure to reset to factory default (Y/N)
```

接続 1:00:32 | VT100 | 9600 8-N-1 | SCROLL | CAPS | NUM | キャ・ | エコーを印

- 2 「Y」(Yes)または「N」(No)を入力します。
ここでは「Y」(Yes)を入力します。EEPROMの初期化が始まり、設定済みの内容が本製品出荷時の初期値にリセットされます。



```
Command> r
Are you sure to reset to factory default (Y/N)y

Programming EEPROM 1...OK
Programming EEPROM 2...OK
Programming EEPROM 3...OK
Programming EEPROM 4...
```

接続 1:01:16 | VT100 | 9600 8-N-1 | SCROLL | CAPS | NUM | キャ・ | エコーを印

3

付 録

この章では、トラブルシューティング、製品仕様について説明しています。

1 トラブルシューティング

本製品を使用中になんらかのトラブルが発生したときの対処法について説明します。

トラブルと思ったら

トラブルが発生したときは、まず発生したトラブルやLEDの状態を確認のうえ、該当の説明をお読みください。

LED表示の確認

10BASE-T/100BASE-TXポートLED

10BASE-T/100BASE-TXポートの状態を表示します。

LED	色	状態	表示内容
LNK/ACT	緑	点灯	リンクが確立しています。
		点滅	パケットを送受信しています。
		消灯	リンクが確立していません。
100M	緑	点灯	100F (100M Full) / 100H (100M Half) に固定設定されているか、もしくはAUTO設定時に100Mbpsで動作しています。
		消灯	10Mbpsで動作しています。 またはリンクが確立していません。

3

付録

電源を投入したが、POWER LED が点灯しない

電源ケーブルが、正しく接続されていますか。

電源ケーブルに断線等はありませんか。

指定された電源電圧を使用していますか。

AC100V、50/60Hzの電源電圧で使用する場合は、必ず、同梱の電源ケーブルを使用してください。

ネットワークケーブルを接続してもLNK LEDが点灯しない

接続先の機器に電源は投入されていますか。

ネットワークインターフェースカードに障害はありませんか。

通信モードは接続先の機器と通信可能な組み合わせに設定されていますか。

本製品のカスケードポートを確認してください。

ストレートケーブルを使用して本製品とリピーターやスイッチをカスケード接続する場合は、本製品のカスケードポート(ポート32)と他のリピーターやスイッチの10BASE-T/100BASE-TXポートを接続してください。その際、カスケード切替スイッチは=HUBに設定してください。

正しいUTPケーブルを使用していますか。

10BASE-Tの場合はカテゴリ3以上、100BASE-TXの場合はカテゴリ5以上のUTPケーブルを使用します。

UTPケーブルの長さが制限を越えていませんか。

10BASE-T/100BASE-TXの場合、ケーブル長は最大100mと規定されています。ただし、100MbpsのクラスIIのリピーターをカスケード接続する場合のリピーター間は5m以内としてください。

ソフトウェアの設定で、ポートの通信が無効(Disable)に設定されていませんか。「ポート設定サブメニュー - Port Configuration Menu」画面でステータスを確認してください。

以上の処置をしても正常に動作しないときは、アライドテレシスサポートセンターまでご連絡ください。

2 仕様

個々では、本製品に関する詳細な情報を必要とする方を対象に、本製品の動作条件や、コネクタのピンアサインなどを説明します。

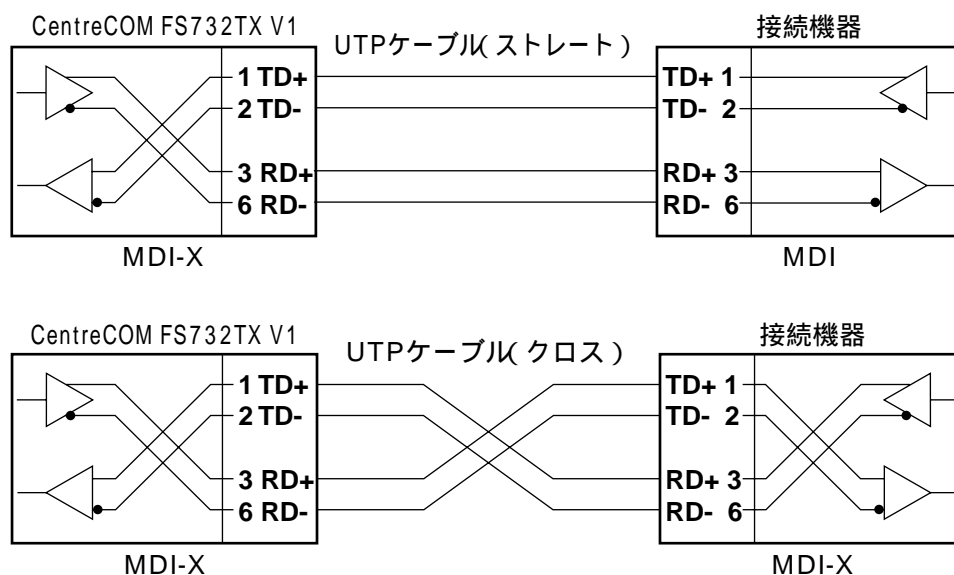
コネクタ / ケーブル仕様

10BASE-T/100BASE-TX インターフェース
RJ-45 型のモジュージャックを使用しています。



コンタクト	MDI信号
1	TD+ (送信)
2	TD- (送信)
3	RD+ (受信)
4	未使用
5	未使用
6	RD- (受信)
7	未使用
8	未使用

ケーブルの結線は下図のとおりです。



本製品の仕様

サポート規格	IEEE802.3 10BASE-T IEEE802.3u 100BASE-TX IEEE802.3x Flow control IEEE802.1p Class of Service, priority protocol
転送モード	ストア&フォワード
MACアドレス登録数	約16,000個
MACアドレス保持時間	約300秒
メモリー容量	8Mbyte (2Mbyte × 4Chip)
適用規格	安全規格 : UL1950 EMI規格 : VCCIクラスA
電源部	定格入力電圧 : AC100V-240V 入力電圧範囲 : AC90V ~ 255V 定格周波数 : 50/60Hz 最大入力電流 : 0.7A 平均消費電力 : 33W (最大35W) 平均発熱量 : 28kcal/h (最大30kcal/h)
環境条件	動作時温度 : 0 ~ 40 動作時湿度 : 80%以下 (ただし結露なきこと) 保管時温度 : -20 ~ 60 保管時湿度 : 95%以下 (ただし結露なきこと)
外形寸法 (突起部含まず)	432(W) × 253(D) × 44(H)mm
重量	3.2kg

4

保証とユーザーサポート

この章では、本製品の保証と、障害の際のユーザーサポート、調査依頼書のご記入方法について説明します。

1 保証とユーザーサポート

保証

本製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」をお読みになり、「お客様インフォメーション登録カード」に必要事項をご記入の上、弊社「お客様インフォメーション登録係」までご返送ください。

「お客様インフォメーション登録カード」が返送されていない場合、保証期間内の無償での修理や、障害発生時のユーザーサポートなどが受けられません。

保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害(人の生命・身体に対する被害、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない)については、弊社は、その責を一切負わないこととします。

ユーザーサポート

ユーザーサポートを受けていただく際には、このマニュアルの調査依頼書を(拡大)コピーしたものに必要事項をご記入の上、下記サポート連絡先までFAXしてください。記入内容などについては、「2 調査依頼書のご記入にあたって」を参照してください。

サポート連絡先

アライドテレシス株式会社 サポートセンター

Tel: ☎ 0120-860-772

月～金(祝・祭日を除く) 9:00～12:00
13:00～18:00

Fax: ☎ 0120-860-662

年中無休 24時間受付

2 調査依頼書のご記入にあたって

本依頼書は、障害の原因をできるだけ早く見つけるためにご記入いただくものです。ご提供いただく情報が不十分な場合には、原因究明に時間がかかったり、最悪の場合には、問題が解決できないこともあります。

迅速に問題の解決を行うためにも、弊社担当者がお客様の環境を理解できるよう、以下の点にそってご記入ください。

記入用紙に書ききれない場合は、プリントアウトなどを別途添付してください。

なお、状況によりご連絡が遅れることもございますが、あらかじめご了承ください。

使用しているハードウェアについて

製品名、シリアル番号(S/N)、リビジョン(Rev)を調査依頼書に記入してください。

シリアル番号、リビジョンは、製品に同梱されている(本体底面に貼付されている)シリアル番号シールに記入されています。

(例)



お問い合わせ内容について

どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかを出来る限り具体的に(再現できるように)記入してください。

エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容のプリントアウトなどを添付してください。

ネットワーク構成について

ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付してください。

他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをご記入ください。

4

保証とユーザーサポート

調査依頼書(CentreCOM FS732TX V1)

年 月 日

1. 御社名:

部署名:

ご担当者名:

ご連絡先住所:〒

TEL: ()

FAX: ()

2. 購入先:

TEL: ()

購入先担当者:

購入年月日:

1. 製品名、シリアル番号(S/N)、リビジョン(Rev)

製品名: CentreCOM FS732TX V1



S/N _____ Rev _____

2. お問い合わせ内容

別紙あり

別紙なし

設置中に起こっている障害

設置後、運用中に起こっている障害

3. ネットワーク構成図

別紙あり

別紙なし

簡単な図で結構ですからご記入をお願いします。

